宮崎市郡医師会病院内科専門医プログラム



公益社団法人宮崎市郡医師会
宮崎市郡医師会病院
Miyazaki Medical Association Hospital

宮崎市郡医師会病院 臨床研修センター

目 次

1. 理念・使命・特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2
2. 募集専攻医数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
3. 専門知識・専門技能とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
4. 専門知識・専門技能の習得計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス・・・・・・・・・・・・・・ P. 7
6. リサーチマインドの養成計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8
7. 学術活動に関する研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8
8. コア・コンピテンシーの研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 8
9. 地域医療における施設群の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
10. 地域医療に関する研修計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 10
11. 内科専攻医研修（モデル）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 10
12. 専攻医の評価時期と方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 11
13. 専門研修管理委員会の運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 13
14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 13
15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 14
16. 内科専門研修プログラムの改善方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 14
17. 専攻医の募集および採用の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 15
18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件・・・ P. 15
- ● 専門研修施設群の構成要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 20
- ● 専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択・・・・・・・・・・・・・・ P. 20
- ● 専門研修施設群の地理的範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 20
- ● 専門研修基幹施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 22
- ● 専門研修連携施設（37 施設）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 24
- ● 専門研修特別連携施設（5 施設）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 95
- ● 宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・ P. 100
- ● 宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム専攻医研修マニュアル・・・・・ P. 102
- ● 宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム指導医マニュアル・・・・・・・ P. 110
- ● 別表 1 各年次到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 113
- ● 別表 2 宮崎市郡医師会病院内科専門研修週間スケジュール・・・・・・・・・ P. 114

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1) 本プログラムは、当院の理念である「患者さんの人権を尊重し、適正な医療を安全に提供するとともに、開放型病院としての特性を最大限に活かし地域医療に貢献することを使命とする」のもと、本プログラムは、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、内科専門研修を経て宮崎県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として宮崎県全域を支える内科専門医の育成を行います。

2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設と特別連携施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準 2】

1) 宮崎県東諸県郡医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

1) 本プログラムは、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院である当院を基幹施設として、近隣医療圏等にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。なお、県外施設として手稲渓仁会病院、虎の門病院、和歌山県立医科大学附属病院、倉敷中央病院、九州大学病院、飯塚病院、久留米大学病院、佐賀大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本大学病院、沖縄県立中部病院等と連携を組んでおり、県内では、宮崎大学医学部附属病院、宮崎県立宮崎病院、宮崎県立延岡病院、宮崎県立日南病院、高千穂町国民健康保険病院等と連携を組んでおります。研修期間は基幹施設と特別連携施設 2 年間（特別連携施設は希望すれば 3 ヶ月以内での研修）＋連携施設 1 年間の 3 年間になります。今後も継続して宮崎県近隣医療圏ならびに県外施設の連携を充実させていく予定です。

2) 宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 基幹施設である当院は、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

4) 基幹施設である当院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P. 113 別表 1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

5) 宮崎市郡医師会病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

6) 基幹施設である宮崎市郡医師会病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（P. 113 別表 1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1）高い倫理観を持ち、2）最新の標準的医療を実践し、3）安全な医療を心

がけ、4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
2）内科系救急医療の専門医
3）病院での総合内科（Generality）の専門医
4）総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができ、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、宮崎県東諸県郡医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～8)により、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 6 名とします。

1）2026 年度現在、宮崎市郡医師会病院には、基幹施設として 1 名、連携施設として 7 名の内科専攻医が在籍しております。
2）剖検体数は 2022 年度 3 体、2023 年度 10 体、2024 年度 6 体、2025 年度 7 体です。
2022 年度から病理専門医が常駐しています。

表　宮崎市郡医師会病院診療科別診療実績

2024 年実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
消化器内科	705	996
循環器内科	3936	11588
糖尿病・内分泌内科	7	28
腎臓内科	35	98
呼吸器内科	355	2057
神経内科	8	302
血液内科・リウマチ科	22	232
救急科	889	2128

3）糖尿病・内分泌、神経内科、血液、膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 3 名に対し十分な症例を経験可能です。
4）13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 18 宮崎市郡医師会病院内科専門研

修施設群」参照）。

5）1 学年 6 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群、120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

6）専攻医 2 年目若しくは、3 年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院 20 施設、地域基幹病院 19 施設および地域医療密着型病院 3 施設、計 42 施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。

7）専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能です。

8）総合内科的問題を抱える多くの患者は、各 subspecialty の入院に振り分け治療しています。各 subspecialty 科入院患者の約 10%は、総合内科的疾患を有する患者です。各 subspecialty には総合内科専門医が在籍しており(計 14 名)、専門診療と総合内科的診療を並行して行います。そのため各 subspecialty をローテーション中も、科横断的に総合内科的研修が可能です。また入院患者の多くが救急外来経由のため、様々な問題を抱えた患者も多く存在し、各 subspecialty 科を回っているときも総合内科的研修を、十分おこなえるように工夫されています。

3. 専門知識・専門技能とは

1）専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とします。

2）専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1）到達目標【整備基準 8～10】（P.113 別表 1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、少なくとも 20 疾患群、60 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)にその研修内容を登録しま

す。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します。
・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2 年:
・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち、通算で少なくとも 45 疾患群、120 症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)にその研修内容を登録します。
・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)への登録を終了します。
・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年:
・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)にその研修内容を登録します。
・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。
　専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能

修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設と特別連携施設 2 年間＋連携 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2）臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。

③ 総合内科外来（初診を含む）と Subspecialty 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。

④ 救急外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。

⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。

⑥ 要に応じて、Subspecialty 診療科検査を担当します。

3）臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

①定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

②医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2025 年度実績 5 回）

※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。

③CPC（基幹施設 2025 年度実績 8 回）

④研修施設群合同カンファレンス（2023 年度より：

年 2 回開催予定）

⑤地域参加型のカンファレンス（基幹施設）

・宮崎地区救急隊との合同カンファレンス：年 1～2 回

・宮崎心臓病研究会：年 12 回

・宮崎市郡医師会内科医会：2025 年度実績 11 回

・宮崎循環器セミナー（年数回）

・ブラックジャックセミナー（医師を目指す高校生 2 年生対象）　年 1 回

・医療統計セミナー：年 2～3 回
・宮崎健康フォーラム（市民向け公開講座　年 1 回）
⑥JMECC 受講：JMECC 受講ができるように環境を整え、専攻医へ参加を推奨します。また当施設でも JMECC が開催できるように努力します。
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
⑦内科系学術集会（下記「7.学術活動に関する研修計画」参照）
⑧国内招聘講師による講義
など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「研修カリキュラム項目表」参照）自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
② 日本内科学会雑誌にある MCQ
③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
※当院では医局図書室にある雑誌、書籍、オンラインジャーナル、uptodate などが利用可能。
など

5）研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて、以下を Web ベースで日時を含めて記録します。

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
・専攻医による逆評価を入力して記録します。
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13、14】

宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した（P.17「宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群」参照）。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である宮崎市郡医師会病院臨床研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。
宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）。
③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
④ 診断や治療のevidenceの構築・病態の理解につながる研究を行う。
⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。
併せて、

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
② 後輩専攻医の指導を行う。
③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準12】

宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。
② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。
なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。
宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記 1）～10）について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である宮崎市郡医師会病院臨床研修センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群研修施設は宮崎県西都児湯医療圏の国立病院機構宮崎病院および宮崎県医療圏外の医療機関から構成されています。

宮崎市郡医師会病院は、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院及び地域基幹病院である手稲渓仁会病院、虎の門病院、和歌山県立医科大学附属病院、倉敷中央病院、九州大学病院、飯塚病院、久留米大学病院、佐賀大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本大学病院、沖縄県立中部病院等で構成しています。高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、宮崎市郡医師会病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。特別連携施設として国立病院機構宮崎病院等があり、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群(P.18)は、宮崎県近隣医療圏および宮崎県医療圏外の医療機関から構成しています。当医療圏と距離が離れている医療圏での研修についても、専攻医の負担にならないように、宮崎市郡医師会病院の担当指導医と、連携施設の担当指導医が連携し専攻医の研修指導にあたり、指導の質を保ちます。

また宮崎県唯一の附属病院を持つ宮崎大学と当院は、医学生のポリクリ、クリニカルクラークシ

ップ、初期研修の協力型病院として研修プログラムを通し深い関係を保っております。他に近隣としては古賀総合病院、宮崎生協病院とも初期研修プログラムにおきまして現在連携中です。今後はさらに宮崎県東諸県郡医療圏内、宮崎県内の近隣医療圏の施設とも連携を計画・準備しております。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28、29】

宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

その宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

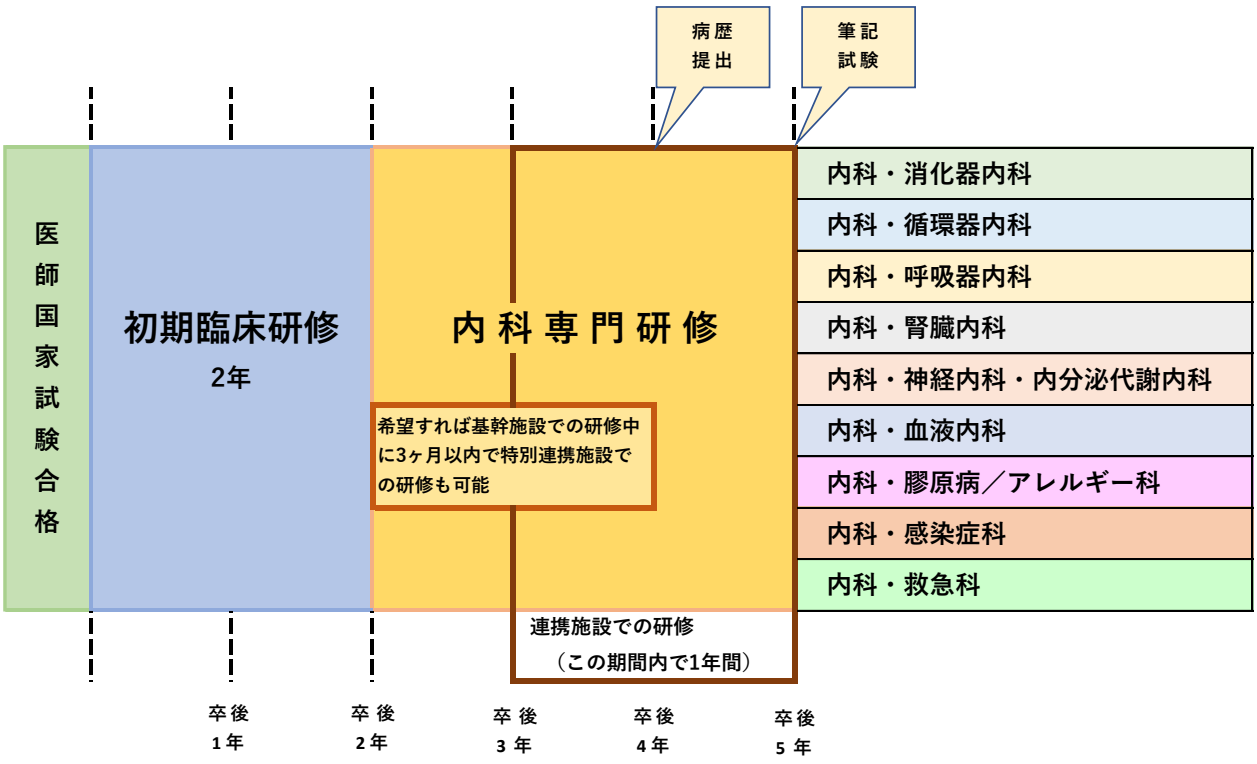


図1. 宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム（概念図）

基幹施設である宮崎市郡医師会病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に専門研修を行います。専攻医 2 年目に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定します。1（図 1）。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17、19～22】

(1) 宮崎市郡医師会病院臨床研修センターの役割

・宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理委員会の事務を行います。
・宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)の研修手帳 Web 版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
・3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促します。
・宮崎市郡医師会病院臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、医療技術職員、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、宮崎市郡医師会病院臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行います。
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
・専攻医は Web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症

例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・専攻医は、専門研修（専攻医）2年修了時までに29症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します。担当指導医は専攻医が合計29症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準53】

1）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ)～ⅵ)の修了を確認します。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し、計200症例以上（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P.105別表1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ⅱ）29病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

ⅲ）所定の2編の学会発表または論文発表

ⅳ）JMECC受講

ⅴ）プログラムで定める講習会受講

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

2）宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約1か月前に宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用い

ます。なお、「宮崎市郡医師会病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】（P.102）と「宮崎市郡医師会病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】（P.110）と別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34、35、37～39】

（「宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理員会」参照）

1）宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（副院長）、プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（P.100 市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理委員会の事務局を、宮崎市郡医師会病院臨床研修センターにおきます。

ⅱ）宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、宮崎市郡医師会病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

① 前年度の診療実績

a） 病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績、b)今年度の指導医数/総合内科専門医数、c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

③ 前年度の学術活動

a） 学会発表、b)論文発表

④ 施設状況

a） 施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催。

⑤ Subspecialty 領域の専門医

日本循環器学会循環器専門医数　16 名、日本糖尿病学会専門医数　1 名、日本腎臓病学会専門医数　1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医数　1 名、日本リウマチ学会専門医数　1 名、日本救急医学会救急科専門医数　3 名　など

14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録と

して、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修（専攻医）1 年目は基幹施設である宮崎市郡医師会病院の就業環境に、専門研修（専攻医）2～3 年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します（P.18「宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群」参照）。

基幹施設である宮崎市郡医師会病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 宮崎市郡医師会職員（医師）として労務環境が保障されています。
- メンタルヘルスに適切に対処する部署（人事課担当）があります。
- ハラスメント委員会が公益社団法人宮崎市郡医師会に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、P.18「宮崎市郡医師会病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

①即時改善を要する事項
②年度内に改善を要する事項
③数年をかけて改善を要する事項
④内科領域全体で改善を要する事項
⑤特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や

指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムを評価します。

・担当指導医、各施設の内科研修委員会、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3） 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

宮崎市郡医師会病院臨床研修センターと宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会は、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

日本専門医機構・日本内科学会の設定するスケジュールに沿って募集を行います。

本プログラム管理委員会は、ホームページでの公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラム応募者は宮崎市郡医師会病院医師募集要項に従い募集し、書類選考および面接を行い、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

(問い合わせ先)　宮崎市郡医師会病院臨床研修センター

【E-mail】mi-rinsyo-k@cure.or.jp　　【HP】　https://www.cure.or.jp/

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了

し新たに内科領域専門研修をはじめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 8 時間、週 5 日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。

宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群
（地方型一般病院のモデルプログラム）
研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

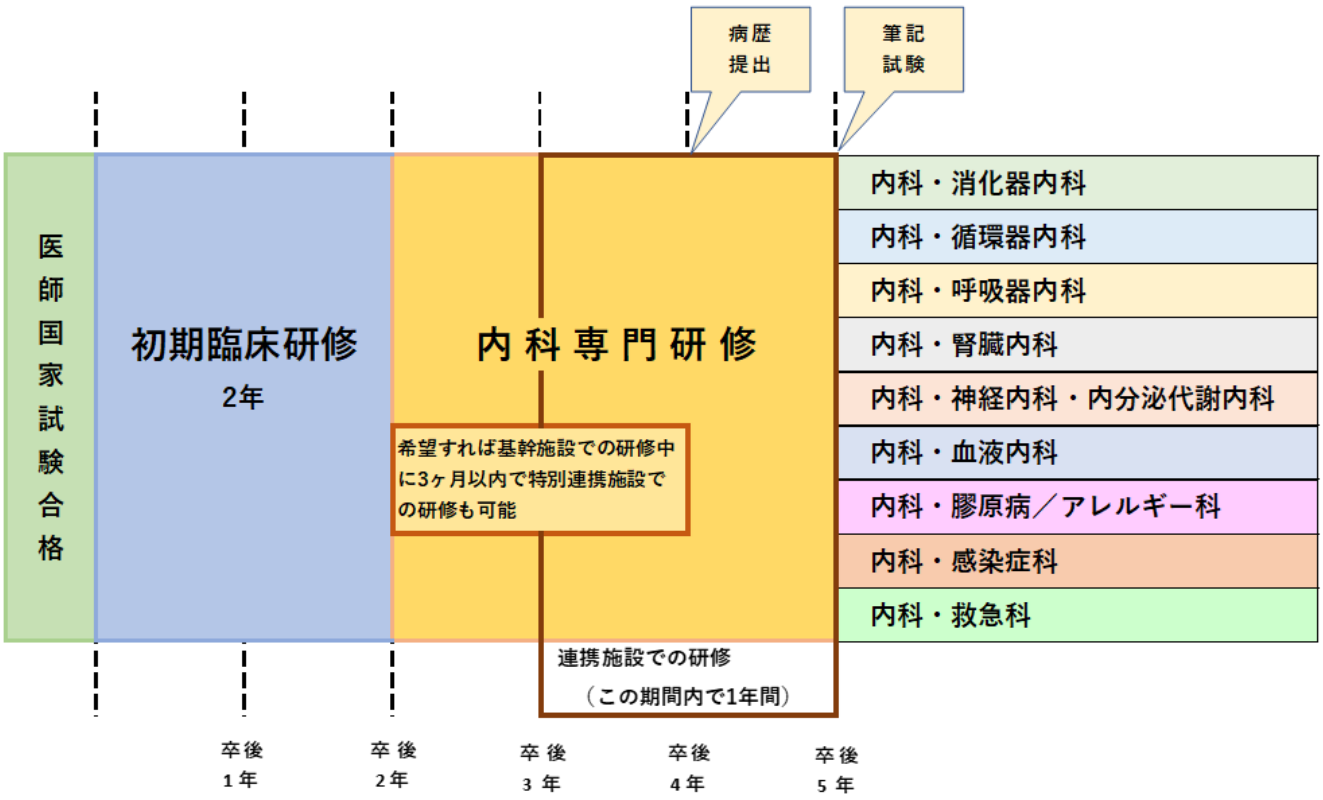


図1.　宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム（概念図）

表 1. 宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群研修施設

	病院	病床数	内科系 診療科数	内科系 指導医数	総合内科 専門医	内科 剖検数
基幹施設	宮崎市郡医師会病院	267	3	18	14	7
連携施設	手稲渓仁会病院	660	8	26	24	7
	総合病院国保旭中央病院	989	12	28	24	61
	NTT 東日本関東病院	594	12	23	23	4
	東京都立荏原病院	461	7	10	6	7
	関東中央病院	383	9	13	11	6
	東京医科大学八王子医療センター	610	12	36	24	5
	虎の門病院	819	11	55	47	11
	武蔵野赤十字病院	611	12	38	34	11
	杏林大学医学部付属病院	1055	13	78	48	26
	横浜栄共済病院	430	7	14	16	5
	名古屋記念病院	416	18	10	10	5
	洛和会音羽病院	527	13	22	20	8
	京都第一赤十字病院	602	13	40	34	8
	国立循環器病研究センター	527	11	72	50	10
	泉大津急性期メディカルセンター	300	10	18	13	6
	和歌山県立医科大学附属病院	800	8	63	44	13
	倉敷中央病院	1172	10	73	54	12
	香川県立中央病院	533	11	27	33	7
	近森病院	489	13	29	24	10
	飯塚病院	1006	18	13	44	8
	九州大学病院	1252	11	151	127	13
	久留米大学病院	1018	6	109	66	11
	佐賀大学医学部附属病院	602	8	83	47	22
	長崎大学病院	776	8	101	91	9
	済生会熊本病院	400	8	45	45	0
	熊本赤十字病院	490	10	25	25	8
	熊本大学病院	845	8	83	70	8
	古賀総合病院	362	9	7	7	0
	高千穂町国民健康保険病院	120	4	1	1	0
	宮崎善仁会病院	199	5	1	6	0
	宮崎県立日南病院	204	2	3	3	0
	宮崎県立延岡病院	410	2	6	6	8
	宮崎県立宮崎病院	502	4	17	16	9
	宮崎大学医学部附属病院	596	9	48	38	11
	宮崎生協病院	120	8	2	0	1
	鹿児島大学病院	704	8	81	64	6
	沖縄県立中部病院	559	10	24	20	6
特別連携施設	海老原総合病院	173	3	1	2	0
	国立病院機構宮崎病院	180	4	2	2	0

	桑原記念病院	83	1	0	1	0
	都城市郡医師会病院	224	4	0	1	0
	メディカルシティ東部病院	143	9	0	2	0

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病　院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
宮崎市郡医師会病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○
手稲渓仁会病院	○	○	○	×	×	○	○	○	△	×	○	○	○
総合病院国保旭中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
NTT 東日本関東病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
東京都立荏原病院	○	○	○	△	○	×	○	×	○	△	×	○	○
関東中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
東京医科大学八王子医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
虎の門病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
武蔵野赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杏林大学医学部付属病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
名古屋記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
洛和会音羽病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	△	△	○	○
京都第一赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
泉大津急性期メディカルセンター	○	○	○	○	△	×	○	○	○	△	×	○	○
和歌山県立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香川県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近森病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	○	△	△	○	△	○
九州大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
久留米大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐賀大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長崎大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会熊本病院	○	○	○	×	△	○	○	△	○	○	△	○	○
熊本赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熊本大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○
古賀総合病院	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	×	△	×
高千穂町国民健康保険病院	○	○	○	△	○	○	○	△	△	△	△	○	○
宮崎善仁会病院	△	○	○	×	×	×	○	×	○	×	○	×	○
宮崎県立日南病院	×	×	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	×
宮崎県立延岡病院	×	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	×	○
宮崎県立宮崎病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

鹿児島大学病院	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△
沖縄県立中部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
海老原総合病院	○	×	○	×	△	○	×	×	○	×	×	△	△
国立病院機構宮崎病院	△	×	○	×	○	×	△	×	×	×	×	△	×
桑原記念病院	○	○	○	△	△	△	○	△	×	△	△	△	△
都城市郡医師会病院	○	○	○	×	△	○	○	×	×	×	×	○	○
宮崎生協病院	○	○	○	△	○	○	○	×	×	×	×	○	○
メディカルシティ東部病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	×	○	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました
＜○：研修できる、△：時にできる、×：ほとんど経験できない＞

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群研修施設は宮崎県および日本全国の医療機関から構成されています。

宮崎市郡医師会病院は、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院及び地域基幹病院である手稲渓仁会病院、虎の門病院、和歌山県立医科大学附属病院、倉敷中央病院、九州大学病院、飯塚病院、久留米大学病院、佐賀大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本大学病院、沖縄県立中部病院等で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、宮崎市郡医師会病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院である、国立病院機構宮崎病院等では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 専攻医 2〜3 年目の 1 年間、連携施設で研修をします（図 1）。希望すれば基幹施設での研修中に 3 ヶ月以内で特別連携施設での研修も可能。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

宮崎市郡医師会病院は宮崎市西部地区に位置し、宮崎県東諸県郡医療圏を担っています。特別連携施設として県北部に位置する国立病院機構宮崎病院では、糖尿病代謝内分泌疾患などさまざまな

内科疾患、重症心身障害者医療を経験することができます。当院から宮崎病院までは電車や車を利用して、１時間程度の移動距離であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いです。

また、高次機能・専門病院及び地域基幹病院である手稲渓仁会病院、虎の門病院、和歌山県立医科大学附属病院、倉敷中央病院、九州大学病院、飯塚病院、久留米大学病院、佐賀大学医学部附属病院、熊本赤十字病院、熊本大学病院、沖縄県立中部病院等とは距離が離れておりますが、各連携施設に常駐する内科専門医、指導医、研修委員会と宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム委員会とが、情報を共有し、また専攻医とも指導医、臨床研修センター担当者が密に連絡を取りプログラムの進行状況や労務管理を適正に行います。

1)専門研修基幹施設

宮崎市郡医師会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･宮崎市郡医師会病院医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルヘルスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が宮崎市郡医師会に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 18 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（宮崎心臓病研究会、地域連携で心不全を考える会、心エコー研究会、宮崎健康フォーラム　2025 年度実績 14 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（開催実績無し）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会及び臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 4 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度 6 例、2025 年度 7 例）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。

指導責任者	副院長　柴田　剛徳 【内科専攻医へのメッセージ】 宮崎市郡医師会病院は宮崎県宮崎東諸県医療圏における急性期基幹病院として近隣の病院、医院、救急隊と密に連携をとり、宮崎市民から求められる最善の医療を心がけています。また指導医のもと主担当医として、患者一人一人に対して入院から退院までの適切な診療だけでなく、患者の社会的背景をも包括する全人的医療と患者に思いやりを持った医療を目指し、実践しています。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医　16 名、日本内科学会総合内科専門医　14 名、 日本循環器学会循環器専門医　18 名、日本不整脈心電学会専門医　3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医　2 名、日本リウマチ学会専門医　1 名、 日本感染症学会専門医　1 名、日本救急医学会救急科専門医　3 名、 日本呼吸器内視鏡学会専門医　2 名、日本集中治療医学会専門医　3 名、 米国集中治療専門医　1 名、　米国麻酔科専門医　1 名　など
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 2980 名（1 ヶ月平均） 入院患者 6044 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会教育病院 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本高血圧専門医研修認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設　など

2)専門研修連携施設

1. 手稲渓仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･手稲渓仁会病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署「まめやか相談室」があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署「コンプライアンス室」があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています。 ･近接地に病院保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 26 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会（施設内において研修する専攻医の研修を管理する）との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･CPC を定期的に開催し（2025 年度実績 5 回）、専攻医に受講を義務付けます。 ･地域参加型のカンファレンス（地域医師会症例検討会,地域救急医療勉強会）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（**2024 年度実績 6 体, 2025 年度実績 7 体**）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置しています。 ･治験に適切に対応する部署（臨床研究・治験推進室）があります。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	星　哲哉 【内科専攻医へのメッセージ】 　手稲渓仁会病院は北海道札幌市西部で最大規模の 670 床を有する急性期総合病院です。内科系のさまざまな専門医資格を持った指導医が 20 名在籍し、豊富な症例で、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	**日本内科学会指導医 20 名, 日本内科学会総合内科専門医 21 名** **日本消化器病学会消化器病専門医 17 名, 日本消化器病学会指導医 8 名** **日本循環器学会循環器専門医 15 名,** **日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本呼吸器学会指導医 2 名** **日本血液学会血液専門医 5 名, 日本血液学会指導医 1 名,** **日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名, 日本内分泌学会指導医 1 名** **日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名, 日本腎臓病学会指導医 2 名,** **日本肝臓学会肝臓専門医 4 名, 日本肝臓学会指導医 2 名,** **日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)4 名,** **日本アレルギー学会指導医(内科)1 名,** **日本神経学会神経内科専門医 3 名, 日本神経学会指導医 1 名,**

	日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名，日本リウマチ学会指導医 1 名 日本感染症学会感染症専門医 0 名，日本感染症学会指導医 0 名， 日本老年医学会老年病専門医1名，日本老年医学会指導医1名
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者　1105 名（1 日平均）　入院患者 587 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医制度研修施設 日本プライマリ･ケア学会認定医制度認定研修施設 日本家庭医療学会後期研修プログラム認定施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設 日本血液学会専門医制度研修施設 日本内分泌･甲状腺外科学会専門医認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医認定医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医制度循環器研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設(呼吸器科) 日本アレルギー学会準認定教育施設(総合内科･小児科)
学会認定施設 (その他)	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本透析医学会専門医制度認定教育施設 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系） 日本臨床細胞学会専門医制度認定施設 日本救急医学会専門医制度専門医指定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本航空医療学会認定施設 など

2. 総合病院国保旭中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･法人職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 28 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理 7 回、医療安全 9 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のうち全疾患群（少なくても 60 以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 61 体、2023 年度実績 51 体、2022 年度実績 57 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024 年度実績 9 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	塩尻　俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 ･旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。 ･高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 42,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 300 床で年間約 9,000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2024 年度は 61 体に及び、毎月 CPC が開催されています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、

	日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 2 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 48,276 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,658 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	J-Osler の疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	J-Osler にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

3. NTT 東日本関東病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である ・研修に必要な図書室とインターネット環境（24H間使用可能）がある ・ＨＳＲ・コンプライアンス委員会が院内に整備されている他、ＮＴＴグループ 企業倫理委員会やヘルプラインの社外窓口も整備されている ・育児と子育て支援等の充実を図れる育児休職制度や育児のための短時間勤務制度が整備されている ・敷地内に独身寮、社宅、院内保育所を保有しており使用可能である
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・内科系指導医が 28 名在籍、専門医が 22 名在籍している（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る ・クリニカルボード・医療安全講演会・感染対策講演会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている
指導責任者	・副院長 渋谷　祐子（高血圧・腎臓内科部長） ＮＴＴ東日本関東病院は東京都区南部（品川区）にある総合病院であり、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に協力病院である当院が連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院としては単に優れた内科医を養成するだけでなく、ＪＣＩ認定病院として医療安全・感染対策を重視しており、患者本位の医療サービスを通じて、医学の進歩並びに日本の医療を担える医師の育成に貢献したいと考えております。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	**日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名** **日本循環器学会循環器専門医 5 名** **日本感染症学会専門医 1 名** **日本腎臓学会腎臓専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 3 名** **日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 5 名** **日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名** **日本リウマチ学会専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名　ほか**
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	**外来患者: 内科系 9,600 人（1ヵ月平均）** **入院患者: 内科系 6,238 人（年間入院患者実数）**
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる
学会認定施設 （内科系）	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる

	日本肝臓学会認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設 日本血液学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設、日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設 日本神経学会教育施設、日本腎臓学会認定教育施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設、日本内科学会認定医制度教育施設 日本内分泌学会認定教育施設、日本脳卒中学会研修教育施設 腹部ステントグラフト実施施設、胸部ステントグラフト実施施設 日本心身医学会研修診療施設、日本透析医学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設、日本胆道学会指導施設 日本臨床腫瘍学会、認定研修施設　など

4. 東京都立荏原病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。 ・地方独立行政法人東京都立病院機構では、機構事務局、病院において、それぞれセクシュアル・ハラスメント相談窓口を設置している。また、都立病院を管轄している機構事務局では、セクシュアル・ハラスメント相談室を設置しており、病院におけるセクハラ・パワハラに関する相談・苦情に対応している。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・保育料助成制度があり利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 10 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている各研修委員会との連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催している。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	**水谷　勝** **【内科専攻医へのメッセージ】** **東京都立荏原病院は、急性期を主体とし慢性期までの患者を扱う区南部医療圏の中心的な病院です。当院は基幹病院として、都立病院で連携病院群を形成し、内科専門医の育成にあたります。主担当医としてさまざまな症例を経験し、初診から退院、外来フォローまでを経験していきます。診断と治療を中心とし、患者対応を通じて種々の事態に対応できる内科専門医を育成していきます。**
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	**日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本緩和医療学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名　ほか**
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	**外来患者　2197 名(1 ケ月平均)　　入院患者　2053 名(1 ケ月平均)**
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。経験が困難な症例については連携施設での研修が可能（墨東病院、大塚病院、駒込病院、大久保病院、東邦大学医療センター大森病院）
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本超音波学会認定専門医研修施設　　など

5. 公立学校共済組合　関東中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています. ·関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスセンター）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育も対応可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 13 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全講習会を（2025 年 15 回）、感染対策講習会を（2025 年 2 回）開催しています。専攻医には受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています．専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全分野で専門研修が可能な症例を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 6 件）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	中込　良 【内科専攻医へのメッセージ】 関東中央病院は、全国に 8 施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで，東京都内の大学病院、関連病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に貢献してまいりました．本研修プログラムは、協力病院と連携し、全人的、臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず,高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。またリサーチマインドを育み、医学の進歩に貢献し，将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします.
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	**日本内科学会認定内科指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医(内科)2 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 0 名、ほか**
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	**外来患者 6,201 名(内科 1 ヶ月平均)入院患者 3,786 名(内科 1 ヶ月平均延数)**
経験できる疾患群	きわめて希な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます. 血液、膠原病分野の入院症例はやや少ないものの、外来症例を含め十分な症例の経験が可能です.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することが可能です.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携が経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本呼吸器学会認定医制度認定施設（内科系） 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会認定医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定ＮＳＴ稼働施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 など

6. 東京医科大学八王子医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労務環境が保障されています。 ・ハラスメントに関する委員会が整備されています。 ・休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・保育施設が利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医 36 名が在籍しています。 ・研修管理委員会を設置し、基幹施設との連携により専攻医の研修支援体制を構築しています。 ・「医療安全」「感染対策」 「個人情報保護」 「コンプライアンス」 に関する講習会を 定期的に開催しています。 ・病院倫理委員会（月 1）を実施しています。 ・JMECC 院内開催を実施しています。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を 診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	臨床研究が可能な環境が整っています。 ・臨床研究 7 支援センター、治験管理室が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	専門研修プログラム統括責任者 尾田 高志（腎臓内科教授） ＜メッセージ＞ 八王子西部に位置する総合病院で、内科系診療科（総合診療科、血液内科、呼吸器内科、 循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、リウマチ性疾患治療センター、神経内科、消化器内科、 腎臓内科、高齢診療科、感染症科）および救急領域での研修が可能です。 当院の特長として症例数が豊富で、幅広い症例を経験できます。豊富な経験を持つ指導医のもと、 内科専門医として必要な技術を習得できます。他科との協調関係も良く、他職種とのチームワークの良さも特長のひとつです。専攻医（後期研修医）の採用は 現在 3 名で 1 学年 5～11 名の実績があります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会【指導医 7 名・専門医 18 名】 日本循環器学会【専門医 1 名】 日本呼吸器学会【指導医 2 名・専門医 4 名】 日本呼吸器内視鏡学会【指導医 1 名・専門医 1 名】 日本甲状腺学会【専門医 1 名】 日本神経学会【専門医 2 名】 日本消化器病学会【指導医 1 名・専門医 4 名】 日本消化器内視鏡学会【指導医 1 名・専門医 4 名】 日本膵臓学会【指導医 1 名・専門医 1 名】 日本胆道学会【指導医 1 名・専門医 1 名】 日本肝臓学会【専門医 3 名】 日本超音波医学会【指導医 1 名・専門医 1 名】 日本消化管学会【専門医 2 名】 日本腎臓学会【指導医 3 名・専門医 5 名】 日本透析医学会【専門医 2 名】 日本リウマチ学会【指導医 2 名・専門医 2 名】 日本糖尿病学会【指導医 2 名・専門医 2 名】

	日本内分泌学会【指導医 3 名・専門医 3 名】 日本アレルギー学会【専門医 3 名】 日本心血管インターベンション治療学会【指導医 1 名・専門医 1 名】 日本心エコー図学会【専門医 1 名】
外来・入院患者数	外来患者 22,516 名（1 ヶ月平均）　入院患者　12,377 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く 経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く 経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども 経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本血液学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本老年医学会専門医認定施設 日本救急医学会専門医施設 日本感染症学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定研修施設 （社）日本腎臓学会認定研修施設 （社）日本透析学医会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設

7. 虎の門病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・虎の門病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。 ・院内に保育施設があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催します。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	内科全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	内科系学会において、内科専攻医が筆頭演者の発表を年間で 20 件ほど行っています。
指導責任者	森　保道
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 55 名
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者数 2,570 名（2024 年度 1 日平均）、入院患者数 640 名（2024 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、定められた 70 疾患群数を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	虎の門病院分院（神奈川県）のみならず、関東近辺・東北・九州の病院と連携しており、各地域における地域医療や診療連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	虎の門病院内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会研修認定施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本腎臓学会認定教育移設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会認定教育施設

8. 武蔵野赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修病院基幹型研修指定病院 ・専攻医の研修に必要な、図書室、机、机上のインターネット環境がある ・専攻医として従来の後期研修医同様、常勤嘱託の身分になる ・メンタルストレスに対応する部門があり、定期検査があり、相談も可能 ・ハラスメント委員会があり、種々のハラスメントに対応している ・女性医師、薬剤師、技師なども多く、女性が働き易い環境がある ・敷地内に託児所があり夜迄預ける事は可能
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を年 5 回開催し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全て定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績９ 演題）をしています。
指導責任者	杉山　徹（内分泌代謝科部長兼臨床研修部長兼院長補佐）
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 38 名、内科学会認定総合内科専門医 34 名、日本消化器病専門医 9 名、日本肝臓病学会専門医 7 名、日本循環器病専門医 5 名、日本心血管インターベンション療学会専門医 3 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本呼吸学会専門医 4 名、日本血液学会専門医４名、本神経学会専門医 3 名、日本腫瘍学会癌薬物療法専門医 3 名、日本リウマチ病学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医１名、日本アレルギー学会専門医１名、日本救急医学会専門医 6 名
外来・入院患者数	外来患者 23,692 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,342 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳に記載してある１３疾患群７０症例すべて経験が可能
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、地域の連携病院、診療所、在宅診療医と連携した、高齢化社会に対応して医療も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	■ 日本内科学会（認定医制度教育病院） ■ 日本腎臓学会（研修施設） ■ 日本透析医学会（認定医制度認定施設） ■ 日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設 ■ 日本血液学会（血液研修施設） ■ 日本内分泌学会（内分泌代謝科認定教育施設） ■ 日本循環器学会（循環器専門医研修施設） ■ 日本心血管インターベンション治療学会（研修施設） ■ 日本超音波医学会（超音波専門医制度研修施設） ■ 日本消化器病学会（認定施設）

	■ 日本肝臓学会（認定施設） ■ 日本消化器内視鏡学会(指導施設) ■ 日本呼吸器学会（認定施設） ■ 日本呼吸器内視鏡学会（認定施設） ■ 日本神経学会（教育施設） ■ 日本脳卒中学会（認定研修教育病院） ■ 日本糖尿病学会（認定教育施設） ■ 日本救急医学会（専門医指定施設・指導医指定施設） ■ 日本集中治療医学会（専門医研修施設） ■ 日本精神神経科学会（研修施設） ■ 日本静脈経腸栄養学会（ＮＳＴ稼働施設）（実地修練認定教育施設） ■ 日本臨床腫瘍学会（研修施設） ■ 日本栄養療法推進協議会（NST 稼働施設） ■ 日本リウマチ学会（教育施設） ■ 日本がん治療認定医機構（認定研修施設） ■ 日本不整脈・日本心電学会（不整脈専門医研修施設） ■ 日本認知症学会（教育施設） ■ 日本緩和医療学会（認定研修施設） ■ 日本高血圧学会（専門医認定施設）

9. 杏林大学医学部付属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，労働基準法を順守し，原則として杏林大学医学部付属病院の専攻医就業規則及び給与規則に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けます．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します．連携病院で研修中は連携病院の専攻医就業規則及び給与規則に従います.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 4 つのコース①内科総合コース②各科重点コース(各診療科専門コース) ③内科地域連携強化コース ④高齢診療科東京都地域枠対応プログラムを準備していることが最大の特徴です．コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます．また，外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために外来症例割当システムを構築し，専攻医は外来担当医の指導の下，当該症例の外来主治医となり，一定期間外来診療を担当し，研修を進めることができます.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	内科研修カリキュラムは消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急の 12 領域から構成されています．杏林大学医学部付属病院には 13 内科系診療科があり，そのうち５つの診療科（糖尿病・内分泌・代謝内科，腎臓・リウマチ膠原病内科，腫瘍内科，高齢診療科，脳卒中科）が複数領域を担当しています．また，救急疾患は各診療科や救急総合診療科によって管理されており，杏林大学医学部付属病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，専門知識の習得を行ないます.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	患者から学ぶという姿勢を基本とし，科学的な根拠に基づいた診断，治療を行いま（evidence based medicine の精神）．最新の知識，技能を常にアップデートし，生涯を通して学び続ける習慣を作ります．また，日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため，症例報告あるいは研究発表を奨励します．論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり，内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。
指導責任者	石井晴之（呼吸器内科診療科長）
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 78 名
外来・入院患者数	外来患者　59,340 名（1 ヶ月平均）　入院患者　22,440 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	専門研修３年間を通じて、日本内科学会が定める内科専門研修カリキュラムの定める 56 疾患群，そして 160 症例以上の経験が可能です.
経験できる技術・技能	内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします.
経験できる地域医療・診療連携	多数ある連携施設や， 特別連携施設を加えた専門研修施設群を構築することで，より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります．患者背景の多様性に対応するため，地域または都外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています.
学会認定施設 （内科系）	多数

10. 横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています. ·院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各 1 名おり,セクハラに関する相談を受け付けています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 14 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（ともに内科指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センター（仮称：2026 年度以降予定）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025 年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会、心不全医療連携研究会、糖尿病内分泌談話会、腎疾患地域談話会、呼吸器懇話会、消化器疾患地域談話会、救急症例検討会：2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検(2024 年度実績 3 体、2025 年度 7 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室,インターネット環境などを整備しています. ·倫理委員会を設置し,定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·治験管理室を設置し,定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	岩城　卓 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜栄共済病院は神奈川県の横浜市南部医療圏の急性期基幹病院であり,協力病院と連携して内科専門研修を行い,地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います.主担当医として,入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで,医療安全を重視しつつ,社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数	日本内科学会指導医 14 名,日本内科学会総合内科専門医 16 名,日本消化器病学会

（常勤医） [2026 年度]	消化器専門医６名,日本循環器学会循環器専門医６名,日本内分泌学会専門医２名,日本糖尿病学会専門医２名,日本腎臓病学会専門医２名,日本本呼吸器学会呼吸器専門医４名,日本神経学会神経内科専門医２名,日本救急医学会救急科専門医１名,ほか(2026 年 4 月時点)
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 15,884 名(1ヶ月平均延数) 入院患者 11,156 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて,研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

11. 名古屋記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・名古屋記念病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医および臨床心理士、職員課担当者）があります。 ・職場環境調整委員会が名古屋記念病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 10 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 専門研修に必要な剖検（2025 年度 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	椎野 憲二 【内科専攻医へのメッセージ】 名古屋記念病院は、愛知県名古屋医療圏東名古屋地区の中心的な急性期病院であり、地域医療支援病院です。地域から信頼される病院づくりをめざして救急医療に力を入れ昨年度は 7000 台を超える救急搬送件数となっています。東海地方の多様な医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として東海地方を幅広く支える内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診および外来診療・入院～退院・通院〉、あるいは在宅医療まで経時的に、診断・治療の流れを経験し、チーム医療の実践を通して、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医の育成をめざします。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来延べ患者 53,538 名/年 入院患者 3,749 人/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、在宅医療なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本循環器学会研修施設 日本血液学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定施設 日本老年医学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

12. 洛和会音羽病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。 ･洛和会音羽病院専攻医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（悩み相談窓口）があります。 ･ハラスメントに対処する部署（ハラスメント相談窓口）があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 22 名在籍しています。 ･内科専門研修管理委員会（プログラム統括責任者）を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しています。専攻医は定められた回数の講習会を受講することが必要です。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医は参加することが必要です。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医は受講することが必要です。 ･地域参加型のカンファレンス（GIM カンファレンス、山科医師会症例検討会など）を定期的に開催しています。 ･プログラムに所属する全専攻医は JMECC を 1 回以上受講する必要があります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、内科専門研修に求められるほぼすべての領域の疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･学術支援センターを設置し、臨床研究支援を行う専門部署を有しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（1 回／月）しています。 ･新薬開発支援部（治験センター）を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（1 回／月）しています。 ･学術支援センターを設置し、臨床研究支援を行う専門部署を有しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（1 回／月）しています。 ･新薬開発支援部（治験センター）を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（1 回／月）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長　横井　宏和（内科系統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 洛和会音羽病院は、京都市山科区に位置する急性期病院で、救命救急センター、がん診療推進病院・災害拠点病院・地域医療支援病院として地域医療に貢献しています。内科の general な力を重点的に伸ばしたい方、subspeciality に重点を置いた研修をしたい方、general と subspeciality を混合して学びたい方など、専攻医の様々なニーズに応えるプログラムを用意しております。医師としての専門性を磨くだけでなく、一人の人間として真摯に、誠実に患者さんやご家族に向き合うことができる医師を目指し、共に成長できるプログラムでありたいと考えています。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会総合内科専門医 20 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本消化器病学会専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名

	日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名 日本腎臓学会腎臓専門医 3 名 日本透析医学会専門医 4 名 日本アフェレシス学会認定血漿交換療法専門医 1 名 日本神経学会専門医 5 名 日本認知症学会専門医 2 名 日本呼吸器学会専門医 4 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名 日本脳卒中学会専門医 5 名 日本臨床神経生理学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本肉腫学会肉腫専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 2 名
外来・入院患者数 **[2025 年度実績]**	外来患者 26,808 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9,092 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本認知症学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設　など

13. 京都第一赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･京都第一赤十字病院の専攻医（常勤嘱託）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医・人事課）があります。 ･ハラスメント相談員（ハラスメント対策委員会）が常勤しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 40 名在籍しています。 ･内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し（2022 年度 4 回、2023 年度 4 回、2024 年度 5 回、）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹施設内に教育研修推進室（人事課内）があり、研修管理委員会と連携して研修の管理をおこないます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。すでにいくつかの地域参加型カンファレンスを実施しており、専攻医にも参加機会を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC を 1 年に 1 回自院にて開催し、すべての専攻医に 1 回以上の参加を義務付けます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を含む、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、内科専門研修に求められるほぼすべての領域の疾患群について研修できます。 ・専門医研修に必要な剖検（2020 年 14 体、2021 年 7 体、2022 年 5 体、2023 年 6 体、2024 年 8 体、）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（年 6 回）しています。 ・学術集会への参加を奨励し、学術集会参加費・出張費を支給しています。
指導責任者	副院長　沢田　尚久 【専攻医のみなさんへメッセージ】 当院は昭和 9 年に日本赤十字社京都支部病院として開設され、昭和 18 年に京都第一赤十字病院と改称し現在に至ります。許可病床は 600 余床で、地域医療支援病院・地域がん診療連携拠点病院・京都府基幹災害拠点病院・救命救急センター・DPC 特定病院群・臨床研修病院機能評価(JCEP)などの各種承認・指定を受けています。また、心臓センター・脳卒中センター・腎透析センター・消化器センター・リウマチ膠原病センター・総合周産期母子医療センターなどを擁しており、専攻医の皆さんは経験豊富で高い専門性を持つ指導医から充実した指導を受けることができます。病院の基本方針の一つに「卒前・卒後の研修施

	設として、次代を担う医療専門職を養成します。」を掲げており、必要かつ十分な研修環境を提供します。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 34 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名（うち内科指導医 10 名）、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名（うち内科指導医 2 名）、日本循環器学会循環器専門医 11 名（うち内科指導医 11 名）、日本腎臓学会腎臓専門医 4 名（うち内科指導医 2 名）、日本糖尿病学会専門医 3 名（うち内科指導医 3 名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名 （うち内科指導医 4 名）、日本血液学会血液専門医 7 名（うち内科指導医 6 名）、日本神経学会神経内科専門医 4 名（うち内科指導医 3 名）、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医 1 名（うち内科指導医 1 名）、日本救急医学会救急専門医 13 名（うち内科指導医 2 名）、日本心血管インターベンション治療学会認定医 4 名（うち専門医 4 名）、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 9 名（うち内科指導医 7 名）、日本透析医学会透析専門医 4 名（うち内科指導医 2 名）、日本脳卒中学会専門医 7 名（うち内科指導医 3 名）、日本脳神経血管内治療学会専門医 7 名 （うち内科指導医 3 名）、日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名（うち内科指導医 3 名） など
外来・入院患者数	2024 年度実績より 内科系外来患者 10,067 名(1 ヶ月平均) 内科系入院患者 553 名(1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会専門研修認定施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 補助人工心臓治療関連学会協議会インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本不整脈神殿学会不整脈専門医研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設 日本てんかん学会てんかん専門医制度研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設

	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会認定ＮＳＴ稼働施設　など

14. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ·ハラスメント委員会が総務部に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 72 名在籍しています。 ·内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。（2024 年度 10 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2024 年度 329 演題）。
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 72 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本循環器学会循環器専門医 54 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 20 名 日本糖尿病学会専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 22 名 日本老年医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171,001 名（2025 年実績） 入院患者 13,635 名（2025 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設など

15. 泉大津急性期メディカルセンター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型臨床研修病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·常勤医師（専攻医）として労務環境が保障されています. ·労働安全衛生委員会（メンタル、ストレス、ハラスメント含む）が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように、病児保育，休憩室，更衣室，当直室が整備されています. ·女性医師は病院近傍の院内保育所が利用可能です
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 18 名在籍しています（下記）. ·内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち， 総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，血液，膠原病，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 10 演題）を予定しています.
指導責任者	田口　晴之 （泉大津急性期メディカルセンター院長代理　心臓血管センター長　内科専門研修統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は大阪府の泉州北部にあり，急性期一般病棟300床（ICU8床，HCU12床、SCU6 床）を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています. ※市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導 18 名， 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器病専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 1 名， 日本血液学会血液専門医 4 名，ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 10929 名（1 ヶ月平均）　入院患者 281.5 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設	日本内科学会教育病院

（内科系）	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設 非血縁者間骨髄移植・採取認定病院 非血縁者間末梢血幹細胞移植・採取認定病院　　など

16. 和歌山県立医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院（基幹型臨床研修病院）です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・和歌山県立医科大学職員 （有期雇用職員） として労務環境が保障されています。 ・和歌山県立医科大学としてメンタルヘルスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメントに関する相談窓口があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、医局・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 63 名在籍しています。 ・内科プログラム管理委員会　、プログラム管理者が各研修施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と事務局を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科専門研修管理委員会と事務局は日本専門医機構による施設実地調査に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちほぼ全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち、ほぼ全疾患群について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多数の学会発表をしています。
指導責任者	松岡孝昭（糖尿病内分泌代謝内科　教授） 【内科専攻医へのメッセージ】 和歌山県立医科大学附属病院は和歌山県および近隣圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本院は宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラムの連携施設として、高い専門性を有する内科医を育成します。また、単なる内科医ではなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献する質の高い医師を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 63 名，日本内科学会総合内科専門医 44 名， 日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 13 名，日本内分泌学会専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 11 名，日本腎臓病学会専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会血液専門医 7 名 日本神経学会神経内科専門医 11 名，日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 14 名 日本臨床腫瘍学会専門医 4 名
外来・入院患者数	外来患者 31,543 名（1 ヶ月平均）　入院患者 19,017 名（1 ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定教育施設 日本肥満学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会指導施設 日本胆道学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科） 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波学会専門医研修施設 日本腎臓学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本アフェレーシス学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会認定施設 日本血液学会認定教育施設 日本輸血細胞療法学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など

17. 倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·倉敷中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ·ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 73 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：2025 年度 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 181 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です.内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医師を育成することを目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 73 名、日本内科学会総合内科専門医 54 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、

［2026 年度］	日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院患者数 ［2025 年度実績］	外来患者延べ数 271,235 人/年（2024 年度実績） 入院患者数 12,838 人/年（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

18. 香川県立中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，労働基準法を順守し，A 大学の専攻医就業規則及び給与規則に従います．専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けます．プログラム管理委員会では各施設における労働環境，労働安全，勤務に関して報告され，これらの事項について総括的に評価します
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	• 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います． • 指導医による専攻医の評価，メディカルスタッフによる 360 度評価，専攻医による逆評価を入力して記録します． • 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）によるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います． • 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します． • 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．
認定基準 【整備基 23/31】 3)診療経験の環境	内科専門医研修カリキュラムに掲載されている主要な疾患については，香川県立中央病院（基幹病院）の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数（H26 年度）を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています（10 の疾患群は外来での経験を含めるものとします）．ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	研究会・学会等の参加。院内雑誌も含む学術論文の投稿。様々な院会カンファレンスへの参加
指導責任者	総括責任者：宮脇裕史 副総括責任者：土井正行 総合診療科：高口浩一 消化器内科：稲葉知己 肝臓内科：永野拓也 呼吸器内科：宮脇裕史 糖尿病内科：吉田淳 血液内科：脇正人 腎臓内科：綿谷博雪 膠原病内科：平石宗之 循環器内科：岡田知明 神経内科：森本展年 看護部：2 名 薬剤部：１名 検査部：1 名 放射線部門：1 名 診療情報管理：1 名 電子カルテシステム：1 名 総務課：**山岡まみ**

指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器病専門医 22 名、日本肝臓学会専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 12 名、日本内分泌学会専門医 0（昨年度と比較確認）名 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 4 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者　133，997 名（令和 7 年度年間延数） 入院患者　898 名（令和 7 年度 1 日平均数）
経験できる疾患群	総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急
経験できる技術・技能	内科医として必要な手技はすべて経験できる
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設、 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、 日本感染症学会認定研修施設、日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設、日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設、 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設、 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設、など

19. 社会医療法人近森会　近森病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する環境（健康管理センター・メンタルヘルスケアサポート連絡会）が整っている。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。 ・敷地内に院内保育所があり、24 時間 365 日利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 29 名在籍している。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る体制が整っている。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。 （2025 年実績　1 演題）
指導責任者	指導責任者：細田勇人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科は約 30 年にわたり大内科制をとっており、救急病院としての救急医療の中核を担っている。そのため、高知県全域から様々な疾患を持った救急患者・重症患者が当院に紹介され救急搬送されている。内科医としての Generality が求められる一方で近年は専門的治療にも特化しており、世界標準の治療を目指して診療を行っている。入院患者対応を行う中で、専門性を磨きつつ、内科一般の幅広い知識を身につけられる。
指導医数 （常勤医）	29 名 日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本消化器病学会指導医 6 名/専門医 15 名 日本消化器内視鏡学会指導医 5 名/専門医 12 名 日本循環器学会専門医 18 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 5 名/認定医 7 名 日本心臓病学会心臓病上級臨床医ＦＪＣＣ 3 名 日本動脈硬化学会指導医 2 名 日本不整脈心電学会不整脈専門医 3 名 日本高血圧学会指導医 2 名/専門医 1 名 日本呼吸器学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 1 名/専門医 1 名 日本血液学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本内分泌学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本糖尿病学会指導医 1 名/専門医 3 名

	日本腎臓学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本透析医学会指導医 1 名/専門医 2 名 日本肝臓学会指導医 2 名/専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名/専門医 1 名 日本老年医学会指導医 4 名/専門医 4 名 日本神経学会指導医 3 名/専門医 5 名 日本脳卒中学会指導医 5 名/専門医 6 名 日本リウマチ学会指導医 2 名/専門医 3 名 日本救急医学会救急科専門医 7 名 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 1 名 JMECC ディレクター2 名/インストラクター4 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者　10,275 名（2025 年度）　　入院患者　11,988 名（2025 年度）
病床	489 床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	救命救急センター 地域医療支援病院 災害拠点病院 基幹型・協力型臨床研修病院 卒後臨床研修評価機構認定 日本医療機能評価機構 機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1/付加機能（救急医療機能 Ver.2.0） 日本内科学会　教育病院 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本神経学会　教育施設 日本脳卒中学会一次脳卒中センターコア 日本脳卒中学会　研修教育施設 日本老年医学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　指導施設 日本消化器病学会　認定施設 日本消化管学会　胃腸科指導施設 日本呼吸器学会　認定施設 日本呼吸器内視鏡学会　認定施設 日本高血圧学会　研修施設Ⅰ 日本動脈硬化学会　教育病院 超音波医学会　超音波専門医研修施設 日本心エコー図学会　認定心エコー図専門医制度研修関連施設 日本不整脈心電学会　不整脈専門医研修施設 ＭＲⅠ対応植込み型デバイス患者のＭＲⅠ検査の施設基準 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術　専門施設 日本心血管インターベンション治療学会　潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設

	日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ 日本リウマチ学会教育施設 日本肝臓学会　関連施設 日本腎臓学会　認定教育施設 日本透析医学会　教育関連施設 日本感染症学会　研修施設　など

20. 飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	● 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ● 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN, Wi-Fi）があります. ● 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 ● メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります. 医務室には産業医および保健師が常駐しています。 ● 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	● 指導医は 40 名在籍しています。 ● 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ● 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。 ● 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年実績　医療倫理 5 回、医療安全 9 回、感染対策 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● CPC を定期的に開催（2025 年実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ● 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ● 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 ● 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ● 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ● 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 ● 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。
指導医数 （常勤医） ［2026 年度］	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器病専門医 15 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 3 名

	日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 5 名、日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数 ［2025 年度実績］	外来患者 33,100 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,853 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・頴田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 **日本臨床栄養代謝学会認定稼働施設** など

21. 九州大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·九州大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が九州大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が（2025 年度）151 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医の倫理 1 回／採用時必須、医療安全 2 回／年、感染対策 2 回／年）し，専攻医に受講（e-learning 講習）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，リウマチ,膠原病，感染症および救急の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 23 演題）をしています.
指導責任者	桑原 綾子 【内科専攻医へのメッセージ】 九州大学病院は福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に協力病院として大学病院の内科系診療科も加わることで、リサーチマインドの育成などを含む質の高い内科医の育成を目指します。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全・倫理を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 151 名，日本内科学会総合内科専門医 121 名 日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本循環器学会循環器専門医 28 名， 日本内分泌学会専門医 8 名，　日本糖尿病学会専門医 17 名， 日本腎臓病学会専門医 21 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 12 名， 日本血液学会血液専門医 18 名，日本神経学会神経内科専門医 16 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本リウマチ学会専門医 12 名， 日本感染症学会専門医 16 名，日本救急医学会救急科専門医 2 名， 老年医学会 2 名，肝臓学会 10 名，消化器内視鏡学会 26 名，臨床腫瘍学会 12 名　他
外来・入院患者数	内科系外来患者 16,940 名（1 ヶ月平均延数）内科系入院患者 11,068 名（1 か月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本心療内科学会専門医研修施設 日本心身医学会研修診療施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本東洋医学会教育病院 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

22. 久留米大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·久留米大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ·ハラスメント委員会が久留米大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように各施設を整備しています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 109 名在籍しています（下記）. ·専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設及び連携施設に設置されている専門医研修委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科療育 13 分野全てを網羅し、それぞれの分野で定常的に 専門研修が可能な 症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　18 演題）をしています.
指導責任者	川口　巧 【内科専攻医へのメッセージ】 　久留米大学病院は、地域医療の核として、また高度先進医療を提供する特定機能病院として、県内外の広範な協力病院と緊密に連携し、優れた人材の育成に邁進しています。 本研修プログラムは、当院の 6 つの内科部門が連携施設と一丸となり、確かな診断力と治療技術、そして高い倫理観を備えた「質の高い内科医」を育成することを目指しています。私たちは医療安全を最優先に掲げ、患者本位の質の高い医療サービスを提供するとともに、大学病院ならではの充実した研究環境と臨床データを活かし、医学の進歩に寄与できる医師を養成します。 地域医療の現場から高度な先進医療まで、幅広く研鑽を積むことができる本プログラムを通じて、福岡・九州のみならず、未来の医療を支える志高い先生方を全力でサポートいたします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 109 名，日本内科学会総合内科専門医 66 名 日本消化器病学会消化器専門医 34 名，日本循環器学会循環器専門医 53 名， 日本内分泌学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 8 名， 日本腎臓病学会専門医 11 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名， 日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名， 日本アレルギー学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 24 名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者（内科）171,501 名（/年）・入院患者（内科）77,221 名（/年）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝内科教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 関連 11 学会構成胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 骨髄移植推進財団非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植認定施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会専門施設 日本肺癌学会教育認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 ほか

23. 佐賀大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·インターネット環境があります. ·専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，労働基準法を順守佐賀大学医学部附属病院での研修中は佐賀大学「臨時職員就業規則等」に従います. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 76 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多くの学会発表をしています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も積極的に行われています.
指導責任者	江﨑幹宏 【内科専攻医へのメッセージ】 佐賀大学内科学講座は旧佐賀医科大学における内科学講座開講以来，大講座制をとっており，現在の初期研修制度が始まる以前から，救急を含め内科の全ての領域を偏りなく学べる体制をとっていました．このノウハウはまだ残っており，その方式で育った医師が現在指導医となっていますので佐賀大学病院での内科専門研修中に可能な限り各領域の様々な疾患を経験できるように努めます．佐賀大学医学部附属病院での研修を活かし，幅広い知識・技能そして視野を備えた内科専門医を目指して下さい.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　76 名，日本内科学会総合内科専門医　40 名， 日本消化器病学会消化器専門医 19 名，日本肝臓学会専門医　8 名，日本循環器学会循環器専門医 18 名，日本内分泌学会専門医 2 名，日本腎臓学会専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会血液専門医 12 名，日本神経学会専門医 6 名，日本アレルギー学会専門医 2 名，日本リウマチ学会 8 名， 日本感染症学会専門医 4 名，日本救急医学会専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　　237,875 人/年（延べ数）　入院患者　　171,201 名/年（延べ数）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，ほぼ全ての疾患群を経験できます．緩和ケア治療，終末期医療等についても経験できます. 2）研修手帳の一部の疾患を除き，多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について，幅広く経験することが可能です.
経験できる技術・技能	1）内科の各専門領域に限らず，多くの診療科があります．緩和ケア治療，放射線治療，内視鏡検査・治療，インターベンショナルラジオロジーなども幅広く経験できます.

	2）技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	佐賀市立富士大和温泉病院に佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センターを開設しており，地域医療の研修が可能です．また，ご紹介いただいた患者さんを紹介元に逆紹介することも多く診療連携をとっています.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器病学会循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 厚生労働省設立許可法人（財）リウマチ財団　災害時リウマチ患者支援事業災害時支援協力医療機関 日本内分泌学会内分代謝科認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）参加施設 日本アレルギー学会教育施設 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会　臨床遺伝専門医制度研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本胃癌学会胃癌全国登録認定施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床検査医学会専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本感染症学会モデル研修施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会専門医認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血管造影・IVR 学会指導医修練施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 など

24. 長崎大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	専攻医の勤務時間，休暇，当直，給与等の勤務条件に関しては，専攻医の就業環境を整えることを重視します. 専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します．特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います．専攻医は採用時に上記の労働環境，労働安全，勤務条件の説明を受けることとなります. １）専攻医用の机，椅子 専攻医が個人で使用できる専用の机と椅子，ロッカーを用意しています．専攻医控室には，共用で使用できるインターネットに接続可能なパソコン，カルテ端末，コピー機，ファクシミリ，シュレッダー，冷蔵庫，電子レンジなどを設置しています. ２）インターネット環境 病院内のあらゆる場所で無線ＬＡＮが利用可能な環境を用意しています．インター　ネットを通じて，研修に必要な文献検索・手技動画サイトの「PUBMED」，「医中誌 Web」，「DynaMed」，「CareNet CME」，「今日の診療」，「メディカルオンライン」，「Up To Date」，「臨床手技データベース」「今日の臨床サポート」などが利用できます. ３）図書室 隣接の医学部キャンパスに附属図書館医学分館があります．また，外来・研究棟 10 階に病院共同図書室があり，24 時間利用可能です. ４）メンタルヘルス・ハラスメント相談 メンタルストレスやハラスメントに対処する部署として，院内にこころとからだの健康相談室を設置し，専任の臨床心理士が常駐しています. ５）メディカル・ワークライフバランスセンター 長崎大学病院で働く医療人および長崎県内の医療機関に勤務する医師が，ワークライフバランスを実現させ，働きがいをもって医療を提供できる環境の整備を整備するための部署を設置しています. ６）シミュレーションセンター 中央診療棟４階にあるシミュレーションセンターには，各種シミュレーターを設置しています．事前に申し込んでおけば，24 時間，365 日利用することができます. ７）女性専攻医への配慮 院内には女性医師専用の休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ８）院内保育所 病院隣接地に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	３）救急・当直診療：内科当直や救急対応を通して，内科領域の救急診療，病棟急変対応などの経験を積みます. ４）カンファレンス・回診：定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科あるいは関連診療科合同カンファレンス・回診を通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高め，議論を通じて，担当以外の症例についても見識を深めます. ５）学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します．後輩を指導することは，自分の知識を整理・確認することにつながることから，当プログラムでは，専攻医の重要な取組と位置づけています. （２）臨床現場を離れた学習 ①内科領域の救急対応，②最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解，③標

	準的な医療安全や感染対策に関する事項，④医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する事項などについて，以下の方法で研鑽します. １）症例検討会・ＣＰＣ：診断・治療困難例，臨床研究症例等について専攻医が報告し，指導医からのフィードバック，質疑・議論を行います．また，ＣＰＣでは，死亡・剖検例，難病・稀少症例の病理診断を検討します. ２）診療・手技セミナー：診療技術や治療，必要とされる知識に関する実践的なセミナーを受講し，研鑽を積みます. ３）抄読会・研究報告会：受持症例や最新の知見等に関する論文概要を口頭説明し，意見交換を行います．研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い，学識を深め，国際性や医師の社会的責任について学び，リサーチマインドを磨きます. ４）JMECC ※ 内科専攻医は原則専門研修１年もしくは２年までに受講します. ５）医療倫理，医療安全，感染対策，臨床研究や利益相反に関する講習会 ※ 内科専攻医は年２回以上受講し，学習します. （３）自己学習 研修カリキュラムにある疾患について，内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します．また，日本内科学会雑誌の multiple choice question やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域における知識のアップデートの確認手段とします.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	長崎大学病院には９つの内科系診療科（リウマチ・膠原病内科，内分泌・代謝内科，脳神経内科，呼吸器内科，腎臓内科，消化器内科，循環器内科，血液内科，総合感染症科）があり，幅広い内科研修が可能です．また，救急疾患は各診療科や救命救急センターによって管理されており，長崎大学病院においては内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています．これらの診療科での研修を通じて，高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	症例の経験を深めるための学術活動における目標を設定し，自己研鑽を生涯にわたって行っていく能力を涵養します. １）内科系の学術集会や企画に年２回以上参加する ２）経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行う ３）クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う ４）内科学の発展に通じる基礎研究を行う 上記のうち，（２）～（４）は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を２件以上すること.
指導責任者	前村　浩二
指導医数 （常勤医）	111 名[2026 年度]
外来・入院患者数	外来患者 1,257.18 名（1 日平均） 入院患者数 638.84 名（1 日平均） ※2025 年度実績年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医は積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始することができます.
経験できる地域医	地域の連携施設・特別連携施設による研修を組み合わせることによって，

療・診療連携	内科全般研修ならびに地域住民に密着した地域医療を学習します.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

25. 済生会熊本病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります ・常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康管理室）があります ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています ・敷地内に院内保育園があります
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 45 名在籍しています ・当院にて研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会と人材開発室を設置します．また，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります． ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：胸部 X 線を読み解く会，熊本消化器カンファレンス，熊本消化器画像診断研究会，済生会熊本病院緩和ケア研修会等）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 5 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に人材開発室が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち少なくとも 9 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 50 以上の疾患群）について研修できます **・専門研修に必要な剖検(2023 年度:1 体，2024 年度:2 体，2025 年度:0 体)を行っています**
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究支援として，臨床研究センターがあり，図書室、オンライン図書なども整備しています ・医療倫理委員会を設置し，定期的に開催しています ・治験事務局を設置し，定期的に治験審査委員会を開催しています ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています
指導責任者	一門　和哉 ◆研修の特徴 当院は、熊本県熊本医療圏にあり、救命救急センターを有する急性期病院であり、国際病院機能評価 JCI を取得しています。 重症・救急患者はもちろん、コモンディジーズから複数の病態を持つ患者の診療など幅広く経験を積むことができます。併せて、様々なキャリアや資格を有する指導医が多数在籍しているため、サブスペシャルティ領域まで踏み込んだ専門的な知識・技術も修得することができます。 また、地域における急性期病院であるため、それぞれの役割を担う施設との病病連携や病診連携も多数経験します。

	当院では、医師のみならず、各職種が専門性を発揮しながら診療にあたります。内科系・外科系問わず各診療科の垣根も低く、複数の診療科、多職種にて行われるチーム医療は自慢できる特徴の一つです。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会総合内科専門医 45 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、 日本消化器内視鏡学会 11 名、日本循環器学会循環器専門医 21 名、 日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本肝臓学会専門医 5 名、日本臨床腫瘍学会専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	総外来患者数（実数）： 138,858 名 総入院患者数（実数）： 130,620 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設（CVIT） 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本専門医機構呼吸器内科領域専門研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腹膜透析医学会 CAPD 教育研修機関 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC） 日本脳卒中学会一次脳卒中センター（PSC）コア 日本感染症学会研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本緩和医療学会 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 JSPEN 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼動施設　など

26. 熊本赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境があります。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります。 ・ハラスメント相談員を配置し、適切に対応しています。 ・医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織としてＭＱＣセンターがあります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、医師室、仮眠室、シャワー室、リラクゼーションルーム、当直室が整備されています。 ・提携する保育所を優先利用することが可能で、院内に病児病後児保育室を完備しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会；基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修プログラム管理委員会と教育研修推進室を設置します。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス研究会 熊本東部地区（内科系持ち回り）内科 Grand Rounds （月 1 回） ＊院内 Grands Rounds を開業医の先生方にも開放する ＊時に院外講師を招き、KUMAMOTO GIM などの企画 菊池 Medical クロスカンファレンス 年 2～3 回 阿蘇 Medical クロスカンファレンス 年 1～2 回 ＊内科専攻医が経験した症例の検討およびスタッフの解説・討論の方式 日本医師会生涯教育講座（病診連携体験学習） ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に教育研修推進室が対応します。 ･特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の熊本赤十字病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 3 体、2023 年度 10 体、2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催し、受託研究を行っています。また、臨床研究の事務的補助を行っています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	内科統括責任者 加島雅之 【内科専攻医へのメッセージ】 熊本赤十字病院はＥＲ型救命救急センターを中心とした医療を展開する急性期

	病院です。100 床を有する、総合内科では臓器別にとらわれることなく、内科診療技能養成に重点を置き、総合内科医の育成を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 また、当院の特徴であるＥＲ型救急の経験を積み、地域住民によく見られる内科疾患から複数の症例を抱えたＩＣＵ管理の必要な重症例まで、幅広く対応できることを目標とします。
指導医数 （常勤医） **[2026 年度]**	日本内科学会指導医 25 名　日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器病専門医 11 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名　日本腎臓学会腎臓専門医 7 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名　日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名　日本救急医学会救急科専門医 21 名　ほか
外来・入院患者数 ［2025 年度実績］	外来患者：70,574 名、入院患者：15,826 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療を中心に、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本救急医学会指導医指定施設 日本胆道学会指導施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高気圧環境・潜水医学会認定病院 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修連携施設

27. 熊本大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·熊本大学医学部附属病院医員（内科専攻医）として労務環境が保障されています。 ·医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織として医療の質センターがあります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健センター、メンタルヘルス相談窓口）があります。 ·ハラスメント委員会が熊本大学に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 83 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（2025 年度実績 0 回）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 3 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　5 演題）をしています。
指導責任者	泉家康宏 【内科専攻医へのメッセージ】 　熊本大学病院は、熊本県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて幅広い活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が基幹施設と連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院内科系診療科では単に内科医を養成するだけでなく、患者背景を含めた広い視点に立って問題点を見極め、医療安全を重視し、きめ細やかな診療を実践できる医師を育成することを第一の目的とし、数多く展開している臨床研究や基礎研究に接することを通じて、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを第二の目的としています。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 83 名，日本内科学会総合内科専門医 70 名 日本消化器病学会消化器専門医 25 名，日本循環器学会循環器専門医 23 名， 日本内分泌学会専門医 7 名，日本糖尿病学会専門医 14 名， 日本腎臓病学会専門医 16 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名， 日本血液学会血液専門医 17 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名，日本リウマチ学会専門医 3 名， 日本感染症学会専門医 4 名，日本臨床腫瘍学会専門医（内科）2 名ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 118,655 名（2025 年）　入院患者 85,639 名（2025 年）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門研修基幹施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化管学会指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 植え込み型除細動器・心臓再同期療法植え込み認定施設 日本老年医学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院 など

28. 古賀総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ·近隣に関連施設である「だきっこ保育園」があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医は 7 名在籍しています（下記）。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2026 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度 0 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，宮崎東諸県医療圏の救急医療合同カンファレンス、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病症例検討会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ·特別連携施設（美郷町国民健康保険西郷病院）の専門研修では、電話や週 1 回の古賀総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2026 年度 3 体予定）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に受託審査会を開催しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。（2025 年度実績 4 演題）
指導責任者	楠元　寿典 【内科専攻医へのメッセージ】 古賀総合病院は、宮崎県東諸県医療圏の中心的な急性期病院で、地域医療支援病院として多くの医療機関と連携しており、コモンディジィーズからまれな疾患まで幅広く経験でき「臨床力」を身につけることができます。また多数の学会関連施設であり将来の subspecialty を視野に入れた内科専門医を目指すことができます。 当院は市中病院でありながら、日本全国で脾臓計測に使用される「古賀の式（脾臓長軸×短軸×0.9）」を提唱した病院であり、豊かな臨床研究マインドがあります。 当院の理念である「患者さんやその家族に納得していただける医療・介護・福祉サービスを継続して提供します」のもと、顔も名前も全員わかる規模の市中病院の強みを生かし、病院全体で「内科専門医」を育てたいと思っていま

	す。一緒に頑張りましょう。病院一同 皆さんを心からお待ちしています。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 10,214 名（1 ヶ月平均）　入院患者 790 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肝臓学会認定施設　など

29. 高千穂町国民健康保険病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院です。 ・施設内に研修に必要なインターネットの環境があります。 ・適切な労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するため、基幹施設と連携できます。 ・健康管理委員会が高千穂町に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室や更衣室等が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 1 名在籍しています。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	
指導責任者	佐藤　祐二（院長）
指導医数 （常勤医） ［2026 年度］	日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、 日本透析医学会透析専門医 1 名
外来・入院患者数 ［2025 年度実績］	外来患者　7,176 名（1 ヶ月平均）　入院患者　2,337 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	無し

30. 宮崎善仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムの連携施設です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ハラスメント対応部署（人事部）が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は消化器内科に 2 名、リウマチ科に 2 名在籍しています。 ・医療安全、院内感染対策の講習会・勉強会を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、少なくとも「消化器」、「循環器」、「呼吸器」、「膠原病および類縁疾患」「救急」の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、インターネット環境などを整備しています。 ・倫理審査委員会を設置し、必要に応じて開催しています。
指導責任者	消化器内科　宮田　義史 宮崎善仁会病院は、宮崎市東部地区における急性期病院として、近隣の医療機関及び消防と連携し、「患者さんのために医療は存在する」という基本理念のもと、地域住民から必要とされる医療を提供しています。早期発見（健診）から、急性期治療、在宅（訪問看護）の分野まで幅広く対応しております。病院では、内科系診療科と外科系診療科がいずれも充実しており、一般外来及び救急外来からくる急患に対しても、各科で協力して診療しております。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本消化器内視鏡学会指導医 2 名，日本リウマチ学会指導医 2 名， 日本内科学会総合内科専門医 3 名，日本消化器病学会消化器専門医 3 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 1 名，日本アフェレシス学会血漿交換療法専門医 1 名，日本内科学会認定医 11 名，日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医 1 名，ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者　4,689 名（1 ヶ月平均）　入院患者 3,851 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	消化器内科領域を中心に、呼吸器内科・循環器内科・脳神経内科領域の疾患が経験できます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、各専門領域と連携して経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問看護との連携など地域に根ざした医療を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本リウマチ学会教育施設 日本人間ドック学会人間ドック健診研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

31. 宮崎県立日南病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，循環器，腎臓，呼吸器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	原　誠一郎
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会総合内科専門医３名、日本透析医学会専門医２名、 日本循環器学会循環器専門医２名, 日本腎臓病学会専門医２名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医１名、日本専門医機構認定内科専門医１名
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 1,021 名（1 ヶ月平均）　入院患者 1,121 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設

32. 宮崎県立延岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·県立延岡病院医師としてとして労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（パワハラ・セクハラ・メンタルサポートなんでも相談窓口）があります. ·安全衛生委員会が県立延岡病院に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，夜間保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 6 名在籍しています. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，血液，アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	山口　哲朗
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導 6 名，日本内科学会総合内科専門医 6 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本透析医学会透析専門医 1 名， 日本消化器病学会消化器病専門医 1 名， 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,441 名（1 ヶ月平均）　入院患者 669 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設

	ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

33. 宮崎県立宮崎病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·宮崎県立病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります（職員健康プラザ等）. ·ハラスメントの防止等に関する相談窓口の設置及び相談員を配置しています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は６名在籍しています（下記）. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2022 年度実績 11 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2022 年度当院開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します. ·特別連携施設での専門研修では，web などによる週 1 回の宮崎県立宮崎病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2021 年度実績 5 体，2022 年度 8 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室を整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，治験事務局より定期的に外部審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	眞柴晃一 【内科専攻医へのメッセージ】 宮崎県立宮崎病院は，宮崎東諸県医療圏のみならず、宮崎県全県下における中心的な高次機能・専門病院・急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。したがって高度な急性期医療、より専門的な内科診療などの診療が経験できます。各 Subspecialty のエキスパートがそろっていますので、将来 Subspecialty 専門医の取得につながる内科研修が可能です。また各種臨床試験、臨床研究も多く取り組んでおり、臨床研究、基礎的研究の基本を身につけることが可能で、将来的な大学院での研究者への道も提供できます。 いっぽうで、当院は開設約 100 年の歴史を有し地域に根ざした第一線の病院でもあり、内科救急疾患、コモンディジーズの診療経験、および超高齢化社会を反映し複数の問題を持った患者の全身管理の経験もできます。また、地域病

	院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との、多職種が関わる病診連携も経験でき、地域基幹病院でのホスピタリストや、地域医療の中での総合内科的診療に強い医師になることも出来ます。 当院での研修を活かし、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 6 名 日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名, 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 2 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本血液学会血液専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名, 日本リウマチ学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 6 名, 日本救急医学会救急科専門医 4 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,248 名（1 ヶ月平均）　入院患者 11,301 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

34. 宮崎大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·宮崎大学医学部附属病院非常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·近隣に附属保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 48 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·内科系合同カンファレンスを定期的に実施しています. ·CPC を定期的に開催（2021 年度実績 9 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 30 演題）をしています.
指導責任者	下田　和哉 【内科専攻医へのメッセージ】 内科には、熱や全身倦怠感、痛み、呼吸困難、腹痛など、の自覚症状を有する患者さんが受診されます。内科医は、患者さんの多彩な訴えや症状から鑑別診断を行い、必要に応じてサブスペシャルティ領域の専門医にコンサルトし、また、肺炎、糖尿病、高血圧などの common disease に対処できる必要があります。本プログラムでは、この様な全ての内科医の基盤となる研修に加え、内科の各サブスペシャルティ領域の研修も併行して行います。研修終了時には、広範囲な内科疾患の基本的な診断、治療ができることに加え、各自が選択したサブスペシャルティ領域の専門医への研修にシームレスに移行できます。宮崎の地で、内科を極めましょう。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 48 名，日本内科学会総合内科専門医 38 名 日本消化器病学会消化器専門医 15 名，日本循環器学会循環器専門医 13 名， 日本リウマチ学会専門医 7 名，日本内分泌学会専門医 2 名， 日本感染症学会専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 7 名， 日本糖尿病学会専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名， 日本老年医学会専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 8 名， 日本肝臓学会専門医 7 名，日本神経学会神経内科専門医 6 名， 日本臨床腫瘍学会専門医 2 名，日本消化器内視鏡学会専門医 13 名
外来・入院患者数	外来患者 22,266 名（1 ヶ月平均）　入院患者 13,939 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病

療・診療連携	病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内科学会専門研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本老年医学会老年病専門研修プログラム基幹施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本臨床神経生理学会認定教育施設（脳波分野、筋電図・神経伝導分野） 日本糖尿病学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本内分泌学会教育施設

35. 鹿児島大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·鹿児島大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ·ハラスメント委員会が鹿児島大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 1 名以上在籍していることとします.(施設の研修委員会) ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な病例数を診療していることとします.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鹿児島大学病院　内科専門医研修プログラム統括責任者　大石　充 【内科専攻医へのメッセージ】 鹿児島大学病院を中心とした鹿児島県専門研修プログラムは，鹿児島本土および離島，その近隣医療圏の医療事情を理解し，地域の実情に合わせた実践的な医療を行うことができる内科専門医師を養成することを目的としています．内科専門医として高い倫理観を持ち，最新の標準的医療を実践し，安全な医療を心がけ，プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し，臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる内科研修を行います.
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 81 名，日本内科学会総合内科専門医 64 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名，日本循環器学会循環器専門医 23 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 10 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 14 名， 日本血液学会血液専門医 8 名，日本神経学会神経内科専門医 20 名， 日本リウマチ学会専門医 4 名，日本老年医学会専門医 2 名，　日本肝臓学会専門医 15 名，日本消化器内視鏡学会専門医 20 名，　臨床腫瘍学会専門医 4 名ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 296,126 人　　入院患者 180,848 人
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病

療・診療連携	病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 など

36. 沖縄県立中部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·沖縄県の規定に準じて労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ·ハラスメントを担当する委員会が沖縄県立中部病院に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 24 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：喜舎場朝雄（医療部長），プログラム管理者：尾原晴雄（医療部長兼内科部長）、内科研修委員会委員長：須藤航）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と初期研修、他科のプログラムを含む全体研修全体を管理するハワイ大学中部病院卒後臨床研修プログラムの共同でプログラム運営します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 2 回、医療安全 2 回、2025 年度実績院内開催医療倫理 1 回、感染対策 1 回、医療安全 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2025 年度実績 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンス（別紙参照）を定期的に開催し，専攻医に受講を促し，そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ·特別連携施設の専門研修では，電話やカンファレンスの配信、インターネットなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記） ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ·専門研修に必要な剖検（2023 年度 8 体、2024 年度実績 4 体、2025 年度 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ·臨床研究委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 2 回※迅速審査 2025 年度実績 35 件）し、臨床研究内容の審査などをしています。 ·治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 4 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 11 演題、その他内科系学会にて計 5 演題（研修医が筆頭演者または筆頭著者は計 6 件）発表をしています。
指導責任者	喜舎場朝雄 【内科専攻医へのメッセージ】 沖縄県立中部病院は，沖縄県中部医療圏の中心的な急性期病院であり，歴史的に、連携施設である、沖縄県立北部、宮古、八重山病院と深く連携し、救急、

	総合内科的研修を中心とした研修を行い、多くの総合内科専門医を輩出してきました（沖縄県の総合内科専門医の約 1/3 弱が当院での初期、または後期研修経験者です）。「Specialist である前に良き generalist であれ」を合言葉に、内科専攻医を育てます。幅広く内科全般を学びたい研修医に適した病院です。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 24 名，日本内科学会総合内科専門医 20 名， 認定内科医 24 名，内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本肝臓学会専門医 1 名,日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 5 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本リウマチ学会専門医 5 名， 日本感染症学会専門医 1 名， 日本臨床腫瘍学会 3 名，日本救急医学会救急科専門医 6 名ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 5279 名（1 ヶ月平均）入院患者 533 名（1 ヶ月平均）内科のみの人数
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本認知症学会専門医制度教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本病理学会病理専門医制度研修認定施設(B) 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼働施設 卒後臨床研修評価機構認定

37. 宮崎生協病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·宮崎生協病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（ヘルスケア委員会）があります. ·ハラスメント相談窓口が宮崎生協病院・法人総務部に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，が整備されています. ・派遣の病児保育制度があります
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催、医療安全 2 回（各複数回開催），感染対策 2 回（各 複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（年度実績 地域連携懇談会 1 回）を定期的 に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます期的 に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸 器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表を目標にしています。
指導責任者	三宅　知里 【内科専攻医へのメッセージ】 **宮崎生協病院は宮崎県宮崎市東部にあり，急性期一般病棟 124 床を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています．古賀総合病院及び宮崎大学医学部付属病院、鹿児島生協病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの特別連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.**
指導医数 （常勤医） **[2026 年度]**	２名
外来・入院患者数 **[2025 年度実績]**	年間入院患者数（実数）　内科　1426 名 1 日平均外来患者数（実数）　内科　142 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	

3) 専門研修特別連携施設

1. 海老原総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·適切な労務環境が保障されています. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内託児所があり、0 歳児から未就学児までの利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 1 名在籍しています. ·研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（それぞれ年２回程度）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンス（年 1 回程度）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（年 2 回程度）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·基幹施設で行う CPC 受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，腎臓，神経、感染症、代謝および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	望月仁志
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会指導医 1 名，日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本透析医学会専門医 1 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名， 日本神経学会神経内科指導医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名， 日本臨床神経生理学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者　4,410 名（1 ヶ月平均）　入院患者　4,383 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 7 領域以上，50 疾患群以上の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病院連携、慢性期、終末期、神経難病医療なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本神経学会認定准教育施設

2. 国立病院機構宮崎病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	·宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムの連携施設です. ·研修に必要なインターネット環境（雑誌文献検索等が可能なメディカルオンライン®が利用可能）があります. ·内科スタッフ医師としての労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する窓口があります. ·ハラスメント防止委員会が施設内に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できる休憩室，更衣室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があります.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 2 名在籍しています（下記）. ·研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療安全・感染対策講習会を定期的に院内で開催しています（令和 4 年度実績医療安全 7 回，感染対策 3 回）. これらの受講機会も少ないため、医療倫理講習も含め、基幹施設での受講の機会が得られるように、受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·基幹施設で行う CPC 、もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，循環器，代謝，呼吸器，神経，および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	宮尾　雄治 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構宮崎病院は、政策医療である重症心身障がい児者医療と一般急性期医療を行う入院病床 180 症の病院です. 宮崎市郡医師会病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として、当院の特徴とする地域医療の研修が主体となります. 地域の医療機関や施設との連携なども行いながら、患者の生活環境等も勘案した全人的医療をコモンディジーズを中心とした急性期および慢性期医療にて研修することができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 2 名，日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1628 名（1 ヶ月平均）　入院患者 69 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳にある 13 領域，70 疾患群の中で、循環器、代謝を中心にその他、総合内科、呼吸器、神経、救急の領域など地域医療で遭遇するコモンディジーズの症例を主に経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携、介護福祉施設等との連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	無し

3. 医療法人相愛会　桑原記念病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	宮崎県西部に位置する、小林市にある病院です。 病院近隣に居住する場合、住宅手当（上限 55,000 円）の支給があります。 電子カルテ導入済み。インターネット環境整備済みです。 コンビニ、スーパーが徒歩 5 分圏内にあります。 病院近辺に保育所、幼稚園、小・中学校あり。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	循環器内科専門医が 2 名在籍しています。 関連施設（居宅・介護老人保健施設・グループホーム・特別養護老人ホーム・診療所）があり、地域医療を総合的（介護・福祉）に学べます。 希望があれば、施設や診療所での研修も可能です。
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	R4 年度実績 CAG：874 件　PCI：455 件　EVT：55 件 経胸壁心ｴｺｰ：3180 件　経食道心ｴｺｰ：260 件　下肢・頸部ｴｺｰ：1842 件 循環器関連疾患の緊急ｶﾃｰﾃﾙ：週平均 2～4 件 救急車受入台数：年間 280～300 件 実践的研修が可能な症例数が十分あります。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	学会出張費の一部補助があります。（1 年間に 2 回まで）
指導責任者	桑原　大門
指導医数 （常勤医）	常勤医　3 名（内科　2 名、外科　1 名）
外来・入院患者数	外来患者　2,300 名（1 ヶ月平均）　入院患者　800 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	地域に根差した病院ですので、循環器関連疾患のみならず、様々な疾患の患者さんがおられます。総合内科Ⅰ・Ⅱ、循環器については研修手帳にある疾患をほぼ経験できます。代謝、呼吸器については、ある程度経験できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある、内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 また、胃カメラ・大腸カメラ・創傷処置など外科・整形外科的分野も希望があれば経験できます。
経験できる地域医療・診療連携	救急受入れ数も多く、また関連施設も多いことから、介護・医療・福祉を総合的に学ぶことができます。特定居宅介護支援事業所を併設しており、医師の気づきからスタートする、多職種連携によるアウトリーチの重要さを学べることも強みです。
学会認定施設 （内科系）	なし

4. 都城市郡医師会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。（文献データベースがあります。） ·都城市郡医師会病院医師として労務環境が保障されています。 ·ハラスメントに関する相談窓口があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025年度実績　医療安全 12 回，感染対策 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，腎臓，呼吸器，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025年度実績　2 演題）をしています。
指導責任者	岩切　弘直 都城市郡医師会病院は宮崎県の西部に位置し、一般社団法人都城市北諸県郡医師会が設置運営している第二次救急医療施設であり、県西部地域の中核病院としての役割を担っております。また、会員医療機関をはじめ、救急隊とも密に連携をとり、地域に信頼される医療の提供を心がけています。
指導医数 （常勤医） [2026 年度]	日本内科学会総合内科専門医 1 名，日本内科学会認定内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 1 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数 [2025 年度実績]	外来患者 5,210 名（2025 年実績）　入院患者 4,981 名（2025 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設

5. メディカルシティ東部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年に 2 回ずつ）し、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，膠原病を除く，総合内科、消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	
指導責任者	小林　浩二（循環器内科医師）
指導医数 （常勤医）	
外来・入院患者数	外来患者　2,671　名（1 ヶ月平均）　入院患者　2,477　名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和 8 年 4 月現在）

宮崎市郡医師会病院

髙村　一志（病院長）
市来　能成（診療部長）
柴田　剛徳（プログラム統括責任者、委員長、循環器分野責任者）
床島　真紀（呼吸器分野責任者）
栗山　根廣（循環器分野責任者）
足利　敬一（循環器分野責任者）
西平　賢作（循環器分野責任者）
木村　俊之（循環器分野責任者）
白尾　英仁（救急分野責任者）
有留　大海（総合内科分野責任者）
川口　剛　（膠原病・感染症分野責任者）
藤野　吉樹（臨床研修センター事務局代表）

連携施設担当委員

医療法人渓仁会　手稲渓仁会病院	部長	星　哲哉
総合病院国保旭中央病院	主任部長	櫛田　俊一
ＮＴＴ東日本関東病院	副院長	渋谷　祐子
東京都立荏原病院	部長	水谷　勝
公立学校共済　関東中央病院	部長	伊藤　敦彦
東京医科大学八王子医療センター	准教授	久保　隆史
虎の門病院	部長	児玉　隆秀
武蔵野赤十字病院	院長補佐	杉山　徹
杏林大学医学部付属病院	科長	石井　晴之
国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院	部長	岩城　卓
名古屋記念病院	部長	椎野　憲二
洛和会音羽病院	副院長	横井　宏和
京都第一赤十字病院	部長	奥山　祐右
国立研究開発法人　国立循環器病研究センター	副院長	野口　暉夫
泉大津急性期メディカルセンター	院長代理	田口　晴之
和歌山県立医科大学附属病院	教授	荒木　信一
倉敷中央病院	副院長	石田　直
香川県立中央病院	院長補佐	宮脇　裕史
社会医療法人近森会近森病院	院長	川井　和哉
株式会社麻生 飯塚病院	部長	小田　浩之
九州大学病院	助教	桑原　綾子
久留米大学病院	講師・医局長	天野　恵介

佐賀大学医学部附属病院	講師	赤星　光輝
長崎大学病院	教授	前村　浩二
社会福祉法人恩賜財団　済生会熊本病院	部長	一門　和哉
熊本赤十字病院	部長	加島　雅之
熊本大学病院	教授	泉家　康宏
古賀総合病院	医長	楠元　寿典
高千穂町国民健康保険病院	院長	佐藤　祐二
社会医療法人善仁会　宮崎善仁会病院	副院長	宮田　義史
宮崎県立日南病院	院長	原　誠一郎
宮崎県立延岡病院	院長	山口　哲朗
宮崎県立宮崎病院	部長	姫路　大輔
宮崎大学医学部附属病院	准教授	永田　賢治
鹿児島大学病院	教授	大石　充
沖縄県立中部病院	医長	須藤　航
海老原総合病院	副院長	望月　仁志
国立病院機構宮崎病院	医員	田ノ上　絵美
医療法人相愛会　桑原記念病院	院長	桑原　大門
都城市郡医師会病院	副院長	岩切　弘直
宮崎医療生活協同組合　宮崎生協病院	院長	三宅　知里
メディカルシティ東部病院	医長	井手野　順一

オブザーバー
内科専攻医代表 1
内科専攻医代表 2

整備基準 44 に対応

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム

専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、宮崎県東諸県郡医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム終了後には、宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2）専門研修の期間

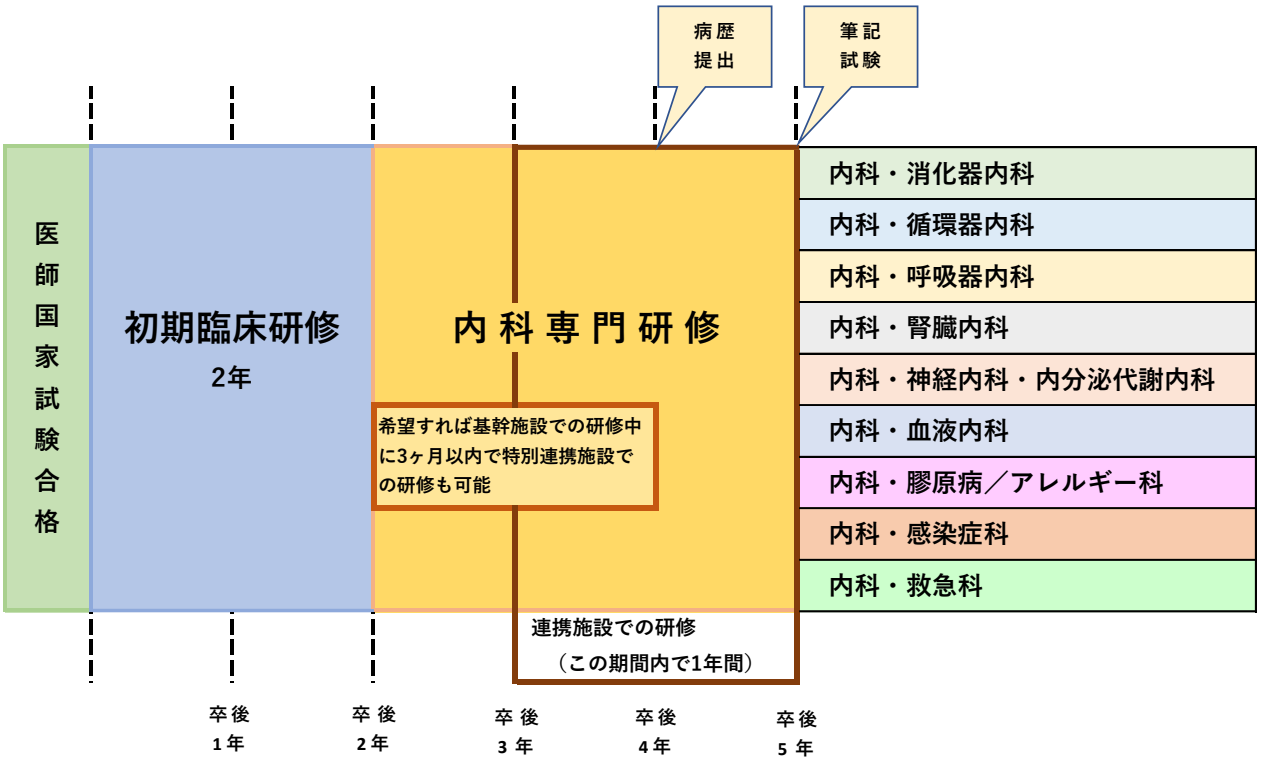


図1.　宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム（概念図）

基幹施設である宮崎市郡医師会病院で、専門研修（専攻医）1年目、2～3年目の期間に1年間、計2年間の専門研修を行います。

3）研修施設群の各施設名（P.18「宮崎市郡医師会病院研修施設群」参照）

基　幹　施　設：宮崎市郡医師会病院

連　携　施　設：手稲渓仁会病院
総合病院国保旭中央病院
NTT東日本関東病院
東京都立荏原病院
関東中央病院
東京医科大学八王子医療センター
虎の門病院
武蔵野赤十字病院
杏林大学医学部付属病院
横浜栄共済病院
名古屋記念病院
洛和会音羽病院
京都第一赤十字病院

国立循環器病研究センター
泉大津急性期メディカルセンター
和歌山県立医科大学附属病院
倉敷中央病院
香川県立中央病院
近森病院
九州大学病院
飯塚病院
久留米大学病院
佐賀大学医学部附属病院
長崎大学病院
済生会熊本病院
熊本赤十字病院
熊本大学病院
古賀総合病院
高千穂町国民健康保険病院
宮崎生協病院
宮崎善仁会病院
宮崎県立日南病院
宮崎県立延岡病院
宮崎県立宮崎病院
宮崎大学医学部附属病院
鹿児島大学病院
沖縄県立中部病院

特別連携施設： 海老原総合病院
国立病院機構宮崎病院
桑原記念病院
都城市郡医師会病院
メディカルシティ東部病院

4）プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（P. 100「宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム指導医師名

領　域	役　職	氏　名	備　考
循環器内科	副院長	柴田　剛徳	プログラム統括責任者
循環器内科	部長	栗山　根廣	
循環器内科	部長	足利　敬一	

循環器内科	部長	西平　賢作	
循環器内科	部長	木村　俊之	
循環器内科	部長	綾部　健吾	
循環器内科	副部長	緒方　健二	
循環器内科	副部長	工藤　丈明	
循環器内科	副部長	門岡　浩介	
循環器内科	副部長	西野　　峻	
循環器内科	医長	山本　圭亮	
循環器内科	医長	本田　泰悠	
循環器内科	医長	津曲　保彰	
循環器内科	医長	高松　　誠	
循環器内科	医長	西野　千春	
内科	部長	床島　真紀	
内科	副部長	有留　大海	
内科	医長	川口　　剛	

5）各施設での研修内容と期間

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）2〜3 年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）2〜3 年目の 1 年間、連携施設で研修をします。希望すれば基幹施設での研修中に 3 ヶ月以内で特別連携施設での研修も可能です。

（図 1 宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム参照）

6）本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である宮崎市郡医師会病院診療科別診療実績を以下の表に示します。宮崎市郡医師会病院は地域基幹病院であり、コモンディジーズを中心に診療しています。

2024 年実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	705	996
循環器内科	3936	11588
糖尿病・内分泌内科	7	28
腎臓内科	35	98
呼吸器内科	355	2057
神経内科	8	302
血液内科・リウマチ科	22	232
救急科	889	2128

＊ 糖尿病・内分泌、神経内科、血液、膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが、外来患者診療を含め、1 学年 3 名に対し十分な症例を経験可能です。
＊ 13 領域中 7 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P. 18「宮崎市郡医師会病院内科専門研修施設群」参照）。
＊ 剖検体数は 2024 年度実績 6 体、2025 年度 7 体です。2022 年度から病理専門医が常駐しています。

7）年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安
Subspecialty 領域に拘泥せず、内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
入院患者担当の目安（基幹施設：宮崎市郡医師会病院での一例）
当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。
専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は、受持ち患者の重症度などを加味して、担当指導医、Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。感染症、総合内科分野は、適宜、領域横断的に受持ちます。

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目
4 月	循環器・腎臓	救急・アレルギー
5 月	循環器・腎臓	救急・アレルギー
6 月	循環器・腎臓	救急・総合内科
7 月	循環器・腎臓	救急・総合内科
8 月	消化器・代謝内分泌	感染症・神経
9 月	消化器・代謝内分泌	感染症・神経
10 月	消化器・代謝内分泌	血液・膠原病
11 月	消化器・代謝内分泌	血液・膠原病
12 月	呼吸器・循環器	希望領域での研修
1 月	呼吸器・循環器	希望領域での研修
2 月	呼吸器・循環器	希望領域での研修
3 月	呼吸器・循環器	希望領域での研修

希望すれば、基幹施設での研修期間中に 3 ヶ月以内で特別連携施設での研修も可能

1 年目の 4 月に循環器領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。5 月には退院していない循環器領域の患者とともに腎臓領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します。
8）自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期
毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時

に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて、以下のⅰ)～vi)の修了要件を満たすことがプログラム終了の基準です。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録させることが必要です。（P. 113 別表 1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

ⅲ）所定の 2 編の学会発表または論文発表

ⅳ）JMECC の受講（1 回以上）

ⅴ）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会の年 2 回以上の受講。

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム管理委員会は確認し、研修期間修了約 1 か月前に宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設・特別連携施設２年間＋連携施設１年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を１年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

ⅰ）日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書

ⅱ）履歴書

ⅲ）宮崎市郡医師会病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の 5 月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（P.18「宮崎市郡医師会病院研修施設群」参照）。

12）プログラムの特色

① 本プログラムは、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院である宮崎市郡医師会病院を基幹施設として、近隣医療圏および近隣医療圏外にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設・特別連携施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間です。

② 宮崎市郡医師会病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

③ 基幹施設である宮崎市郡医師会病院は、宮崎県東諸県郡医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

④ 基幹施設である宮崎市郡医師会病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.105 別表 1「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

⑤ 宮崎市郡医師会病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

⑥ 基幹施設である宮崎市郡医師会病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（別表 1 「宮崎市郡医師会病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)に登録します。

※希望すれば、基幹施設での研修期間中に 3 ヶ月以内で特別連携施設での研修も可能

13）継続した Subspecialty 領域の研修の可否

・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。

・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty

領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

14）逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年 8 月と 2 月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15）研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16）その他

特になし。

整備基準 45 に対応

宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム

指導医マニュアル

1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

・1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。

・担当指導医は、専攻医が Web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。

・担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。

・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。

・担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2) 専門研修の期間

・年次到達目標は、P.113 別表 1「宮崎市郡医師会病院内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について」に示すとおりです。

・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。

・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。

・担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3) 専門研修の期間

・担当指導医はSubspecialtyの上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳Web版での専攻医による症例登録の評価を行います。
・研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っていると第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
・主担当医として適切に診療を行っていると認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳Web版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)の利用方法

・専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
・担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
・専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
・専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
・専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医とそれぞれの施設の臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
・担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とに予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

宮崎市郡医師会病院給与規定によります。

8）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER)を用います。

9）日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形成的に指導します。

10）研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11）その他

特になし。

別表１　　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群（任意選択含む）	45疾患群（任意選択含む）	20疾患群	29症例（外来は最大7）※3
症例数※5		200以上（外来は最大20）	160以上（外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表２　宮崎市郡医師会病院内科専門研修　週間スケジュール（例）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	ICU・CCU カンファレンス	救急科合同 カンファレンス	ICU・CCU カンファレンス	ICU・CCU カンファレンス	救急科合同 カンファレンス	担当患者の病態に応じた診療・ｵﾝｺｰﾙ・日当直や、講習会・学会参加など
	循環器内科回診	新患外来診察	循環器内科 外来診察	カテーテル検査	内視鏡検査	
	人工透析					
午後	超音波検査	気管支鏡検査	カテーテル治療 （手術室）	カテーテル治療	内科外来診察	
	超音波 カンファレンス	内科 カンファレンス	カテーテル カンファレンス	カテーテル カンファレンス	内科 カンファレンス	

★宮崎市郡医師会病院内科専門研修プログラム４。専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

・上記はあくまでも例：概略です。

・内容および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。

・入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。

・日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。

・地域参加型カンファレンス、講習会、CPC（臨床-病理検討会）、学会などは各々の開催日に参加します。